

## 利用者意識の調査結果（オンライン）

## 調査の目的

- 利用者参加制度（北アルプストレイルプログラム）に対する利用者（登山者）の意識・意向を把握し、持続可能な制度の構築、運用にかかる改善点を検討すること。

## 調査の目的

1. 属性 | 性別／年代／居住地／登山歴／登山頻度／槍穂高・常念山脈エリアの登山経験
2. 北アルプストレイルプログラム実施期間中の利用実態 | 対象地への来訪状況／利用した登山道／入山日／登山日数／訪問人数／入山口・下山口
3. 北アルプス南部地域の登山道維持が抱える問題について | 問題への認知度／「登山の心構え」への認知度／協力してもよい行動
4. 北アルプストレイルプログラムについて | 取組に対する認知度・昨年度の寄付金支払い有無／取組認知のきっかけ／登山道維持協力金の支払い有無・支払い方法／登山道維持協力金の支払い金額
5. 今後の北アルプストレイルプログラムへの関わり方 | 登山道維持協力金の支払い意向／登山道維持協力金を支払ってもよいと思う金額
6. 意見・感想（自由回答）

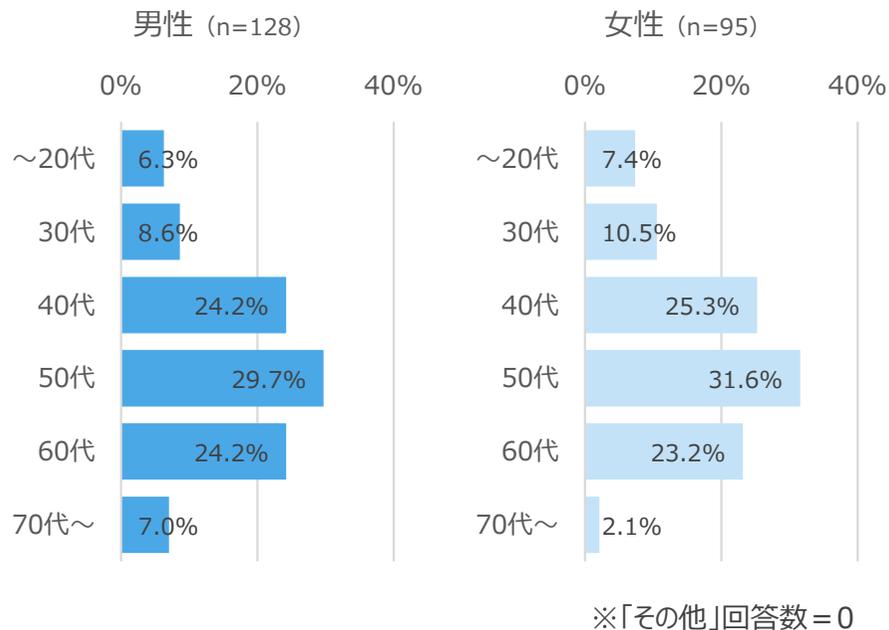
## 調査方法

- QR付き広報媒体を登山口等に設置し、利用者自身がQRを読み取りWebサイトにアクセスし、オンラインで回答する。
- ただし、利用者の属性が偏ることを避けるため、一部の登山口で日時を限定して調査員による手渡しでの配布を追加的に実施し、アンケート調査への協力を呼びかけた。

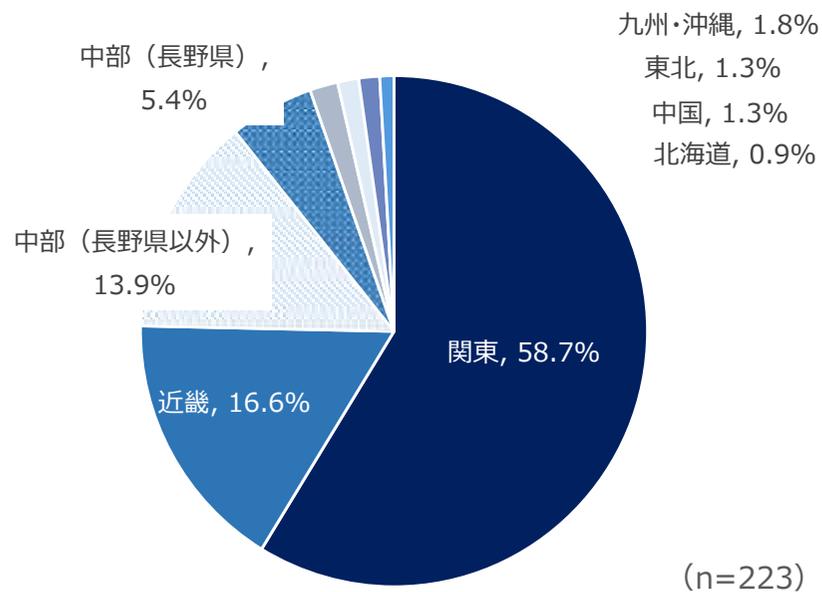
## 調査期間

- 2022年4月27日（水）～ ※同年11月19日（土）時点までの回答を集計

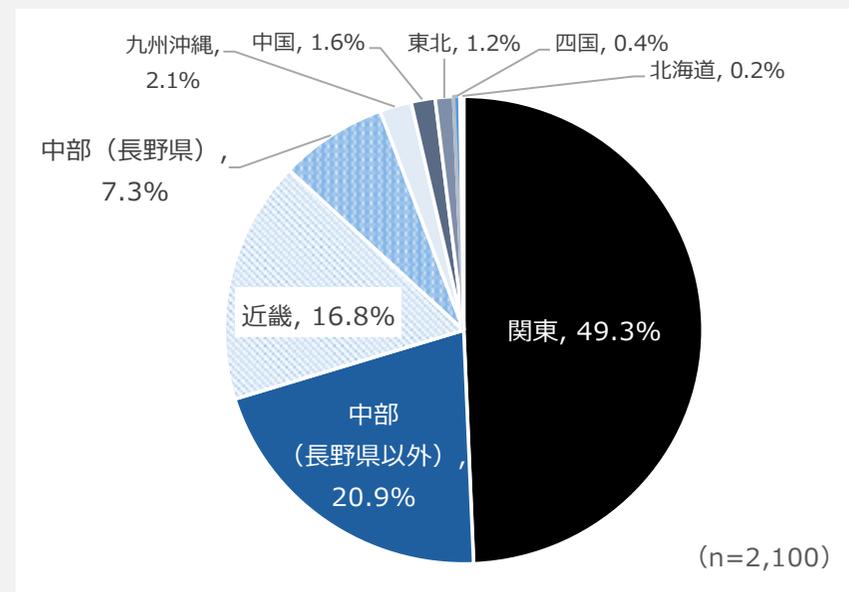
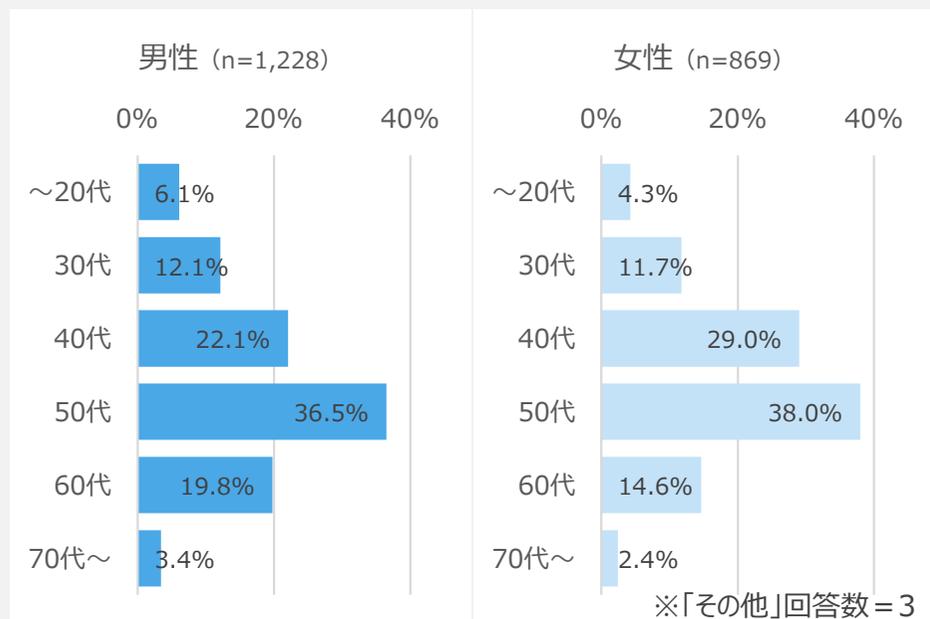
### 性年代



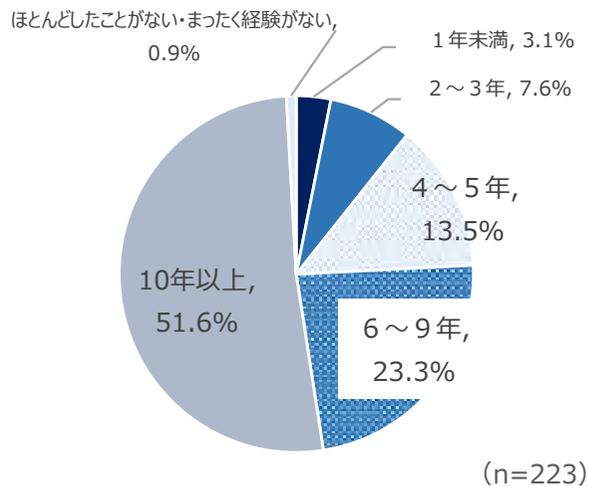
### 居住地



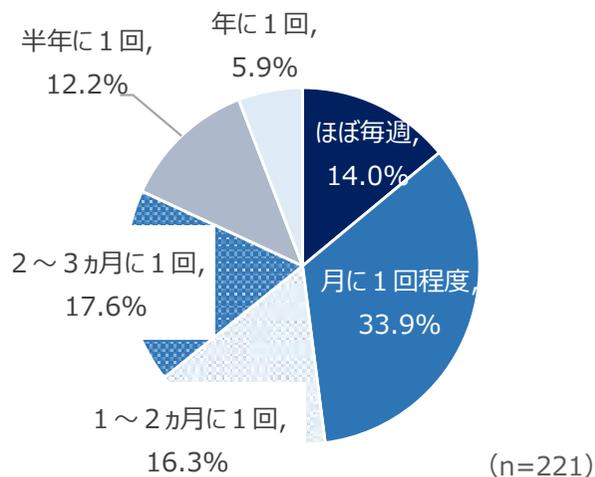
### (参考) R3年度



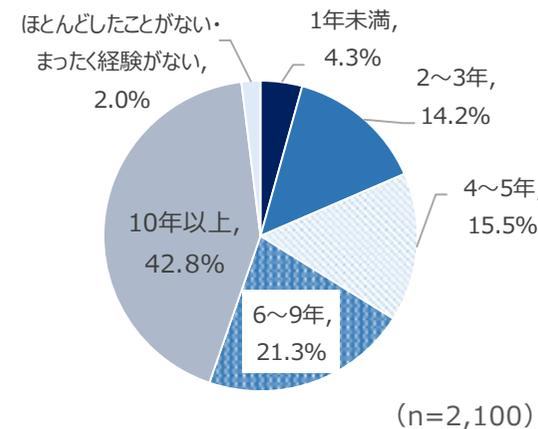
### 登山歴



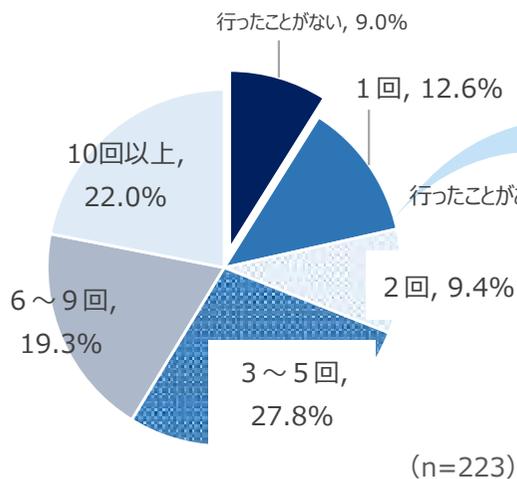
### 登山頻度



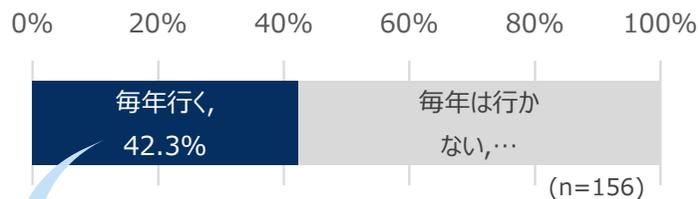
### (参考) R3年度



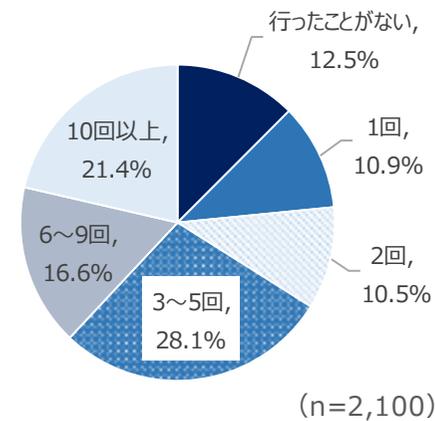
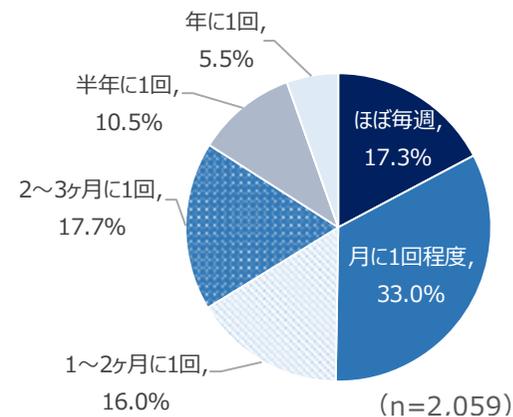
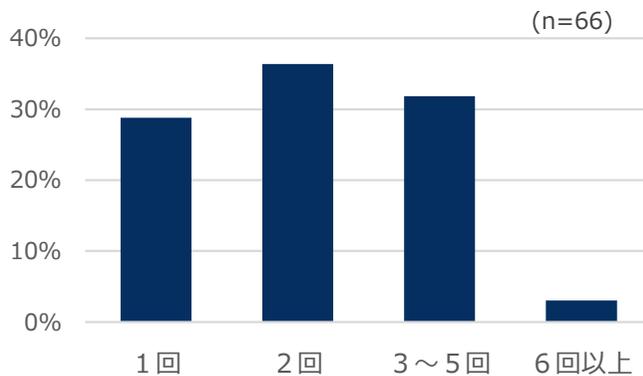
### 槍穂高・常念山脈の登山経験



### 槍穂高・常念山脈に毎年行くか否か

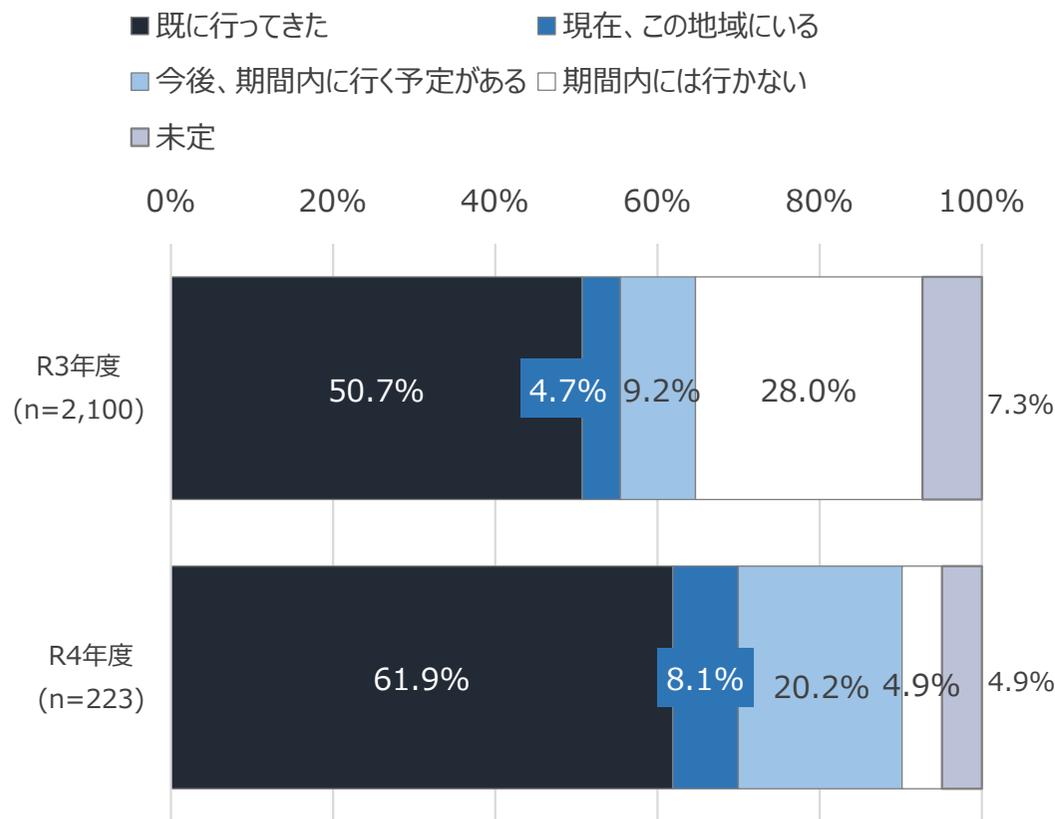


### 槍穂高・常念山脈への年平均訪問回数



# 回答者のうち、約9割が対象地訪問者（既に行ってきた+現在、この地域にいる+行く予定がある）、訪問しない人は0.5割となった。

Q 「北アルプストレイルプログラム」の実施期間中（2022年4月27日（水）～）、あなたは下の地図の色塗りにした登山道の範囲（槍穂高・常念山脈エリア）に行きますか。（1つだけ）



## 利用した登山道は、梓川左岸歩道、涸沢歩道、槍ヶ岳歩道の順が多い。

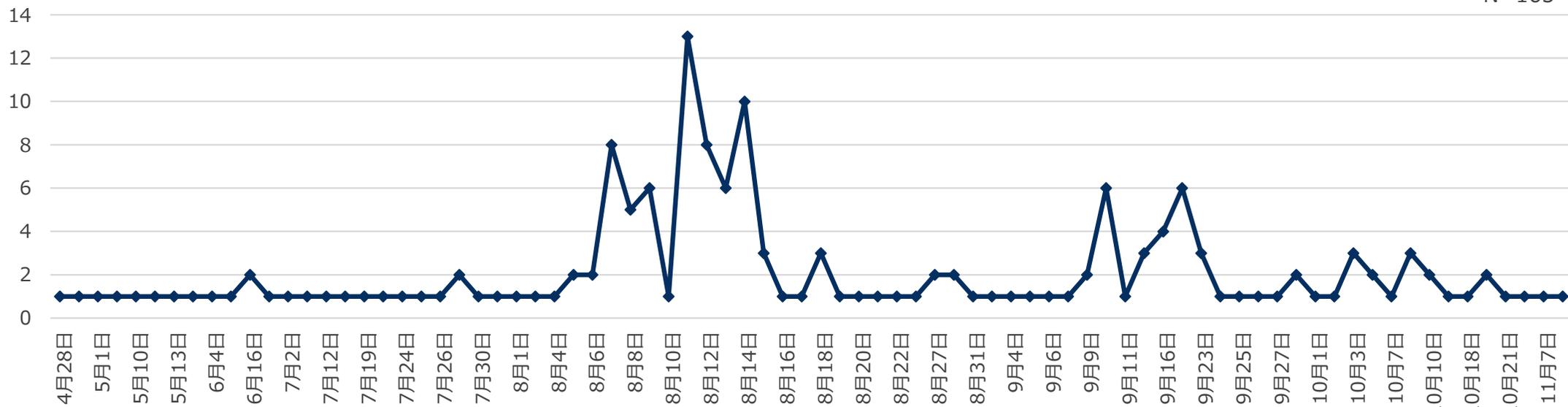
Q 「北アルプストレイルプログラム」の実施期間中（2022年4月27日（水）～）に利用した、もしくは、利用する予定の登山道や園路を全てお選びください。（いくつでも）



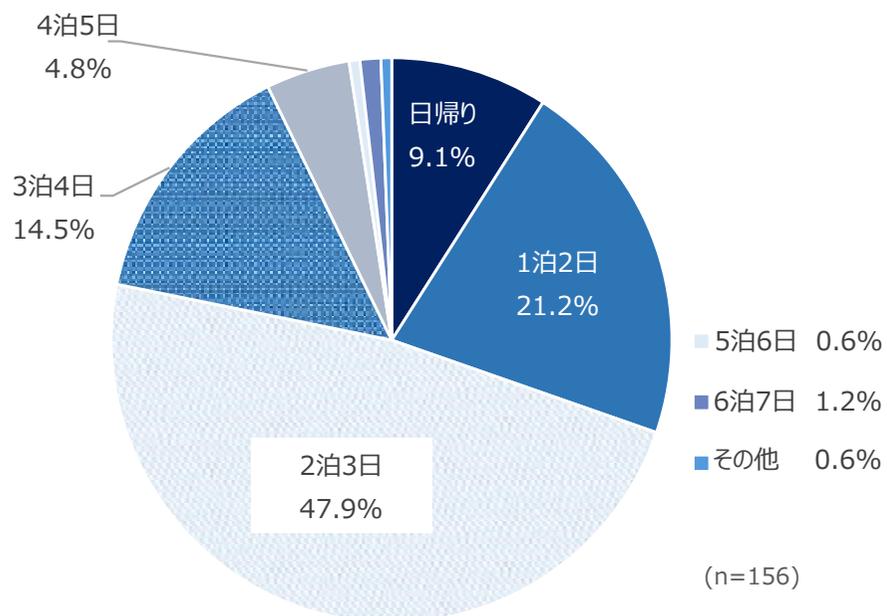
	R3年度 (n=1,358)	R4年度 (n=177)
梓川左岸歩道	59.6%	72.9%
涸沢歩道	45.9%	44.1%
槍ヶ岳歩道	18.4%	31.6%
上高地周辺の散策路	14.3%	24.9%
燕岳歩道	26.5%	22.0%
奥穂高岳歩道	15.4%	20.9%
岳沢前穂高岳歩道	12.7%	19.2%
蝶ヶ岳歩道	8.2%	15.8%
常念岳歩道	9.5%	14.7%
北穂高岳歩道	9.0%	14.1%
岐阜県側富山県側	5.7%	10.7%
西穂高岳歩道	3.5%	6.8%
西岳歩道	1.8%	5.6%
南岳歩道	3.6%	5.1%
大天井岳歩道	1.6%	4.5%
焼岳歩道（上高地～焼岳～割谷山）	3.8%	4.0%
焼岳歩道（中の湯～焼岳）	3.8%	3.4%
有明山歩道	1.0%	1.1%
徳本峠歩道	0.6%	0.6%
大滝山歩道	0.1%	0.0%
分からない	2.4%	1.7%

### 入山日

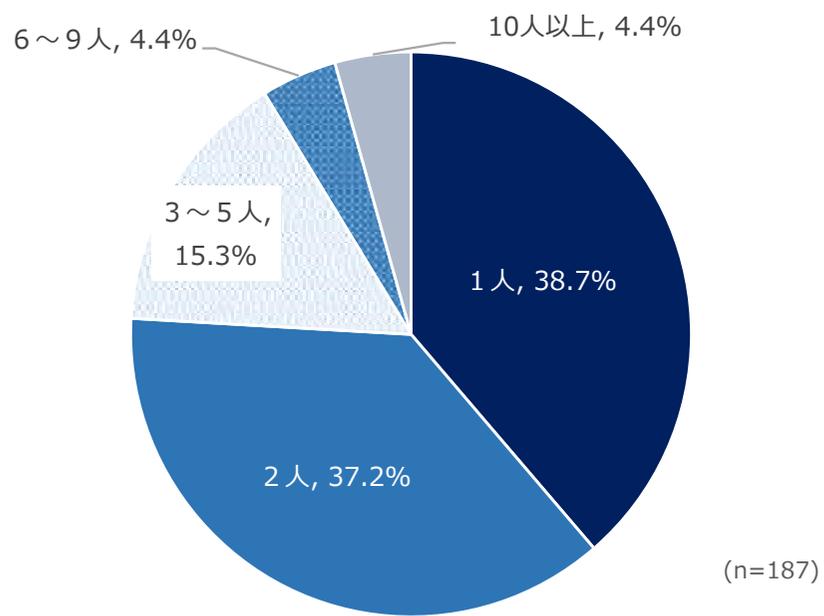
N=165



### 登山日数



### 訪問人数



## 入山口・下山口

## 下山口

N=135

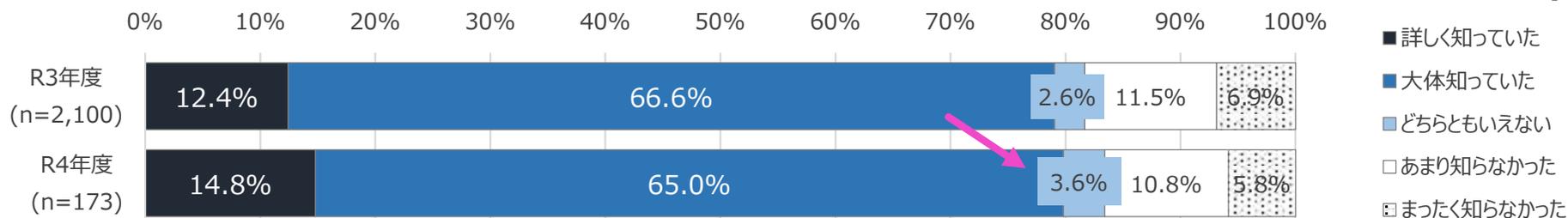
	横尾登山口（涸沢）	横尾登山口（槍ヶ岳・蝶ヶ岳）	奥又白谷登山口	徳沢登山口	岳沢登山口	明神登山口	中房登山口	一の沢登山口	三股登山口	上高地西穂高岳登山口	新中の湯登山口	その他	総計
横尾登山口（涸沢）	24.4%	2.2%	0.7%	0.7%	3.7%								31.9%
横尾登山口（槍ヶ岳・蝶ヶ岳）	0.7%	23.0%		0.7%	0.7%						1.5%		26.7%
奥又白谷登山口													0.0%
徳沢登山口		0.7%		3.7%									4.4%
岳沢登山口	5.2%				1.5%						0.7%		7.4%
明神登山口				0.7%		0.7%							1.5%
中房登山口		3.0%		1.5%			7.4%			0.7%	2.2%		14.8%
一の沢登山口		0.7%						0.7%	0.7%		0.7%		3.0%
三股登山口				1.5%					1.5%				3.0%
上高地西穂高岳登山口		0.7%		0.7%						0.7%			2.2%
新中の湯登山口										0.7%			0.7%
その他	0.7%					0.7%					3.0%		4.4%
総計	31.1%	30.4%	0.7%	9.6%	5.9%	1.5%	7.4%	0.7%	2.2%	2.2%	8.1%	26.7%	100.0%

入山口

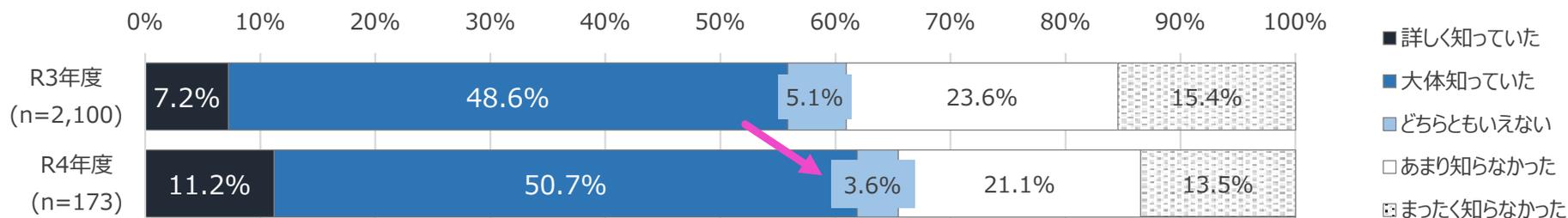
## 登山道維持の課題に関してはいずれも、6割～8割が「知っていた（詳しく知っていた+大体知っていた）」と回答。R3年度に比べ認知度は向上した。

Q 北アルプス南部地域では、行政機関だけでなく、民間の山小屋が登山道の維持の作業を行っていることをご存知でしたか。

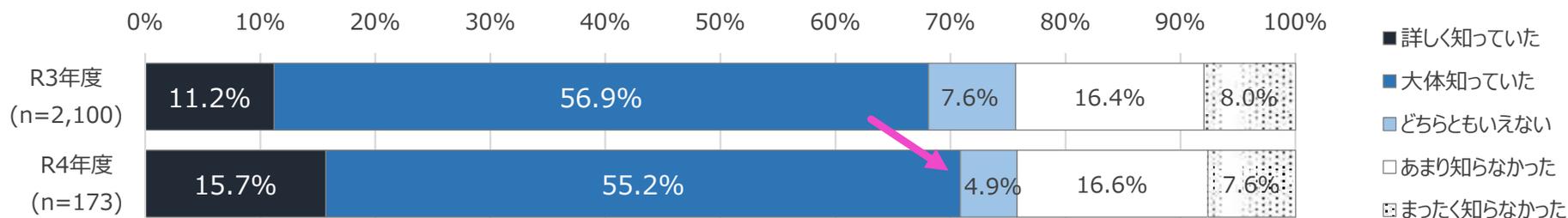
(1つだけ)



Q 現在、登山道の維持管理に必要な費用は、行政などの予算の範囲内では賄いきれない状況です。この不足分を、民間の山小屋が収益の一部から持ち出して、登山道を維持していることをご存知でしたか。(1つだけ)

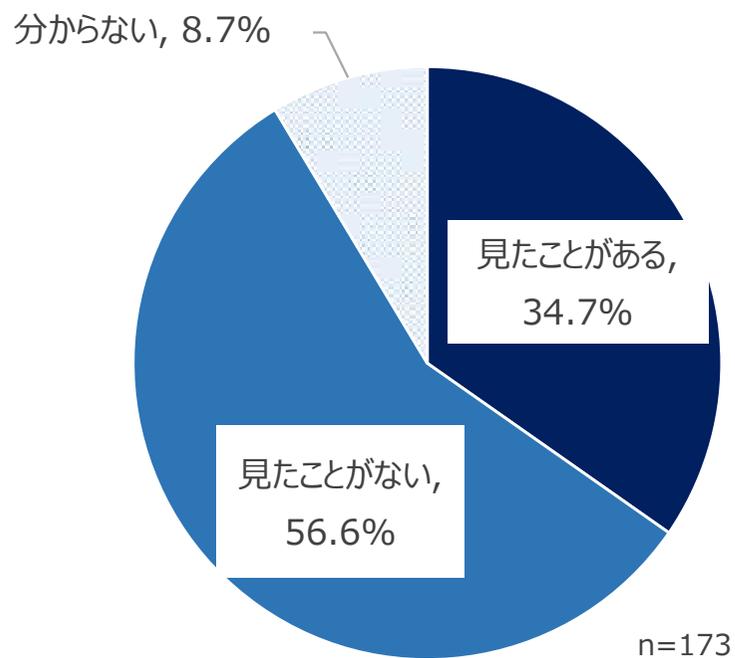


Q 近年、自然災害の多発や新型コロナウイルス感染症の流行など自然や社会の環境変化により、山小屋の経営状況が悪化しています。このことにより、これまでと同様の登山道維持ができなくなる可能性が生じていることをご存知でしたか。(1つだけ)



# 令和4年度から追加で発信されている「登山の心構え」は、「見たことがある」が3割以上、「見たことがない」が6割弱となった。

Q 現在、北アルプス登山道等維持連絡協議会を中心に、「登山の心構え」を、北アルプストレイルプログラムのHPや登山道案内板を通して、登山者の皆様に呼びかけています。この「登山の心構え」をご覧になったことがありますか。（1つだけ）



普及啓発用案内板の設置

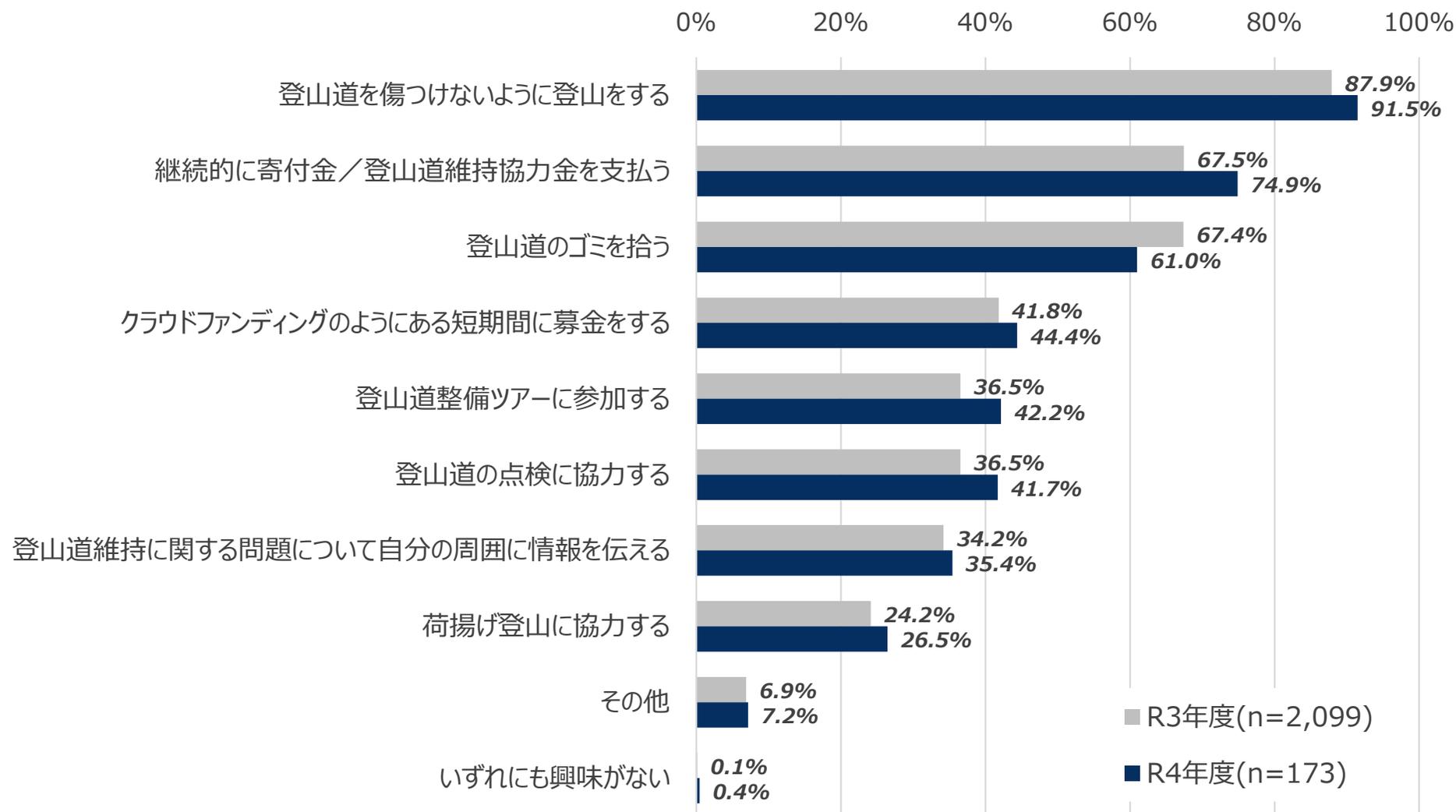


協議会ウェブサイトでの発信



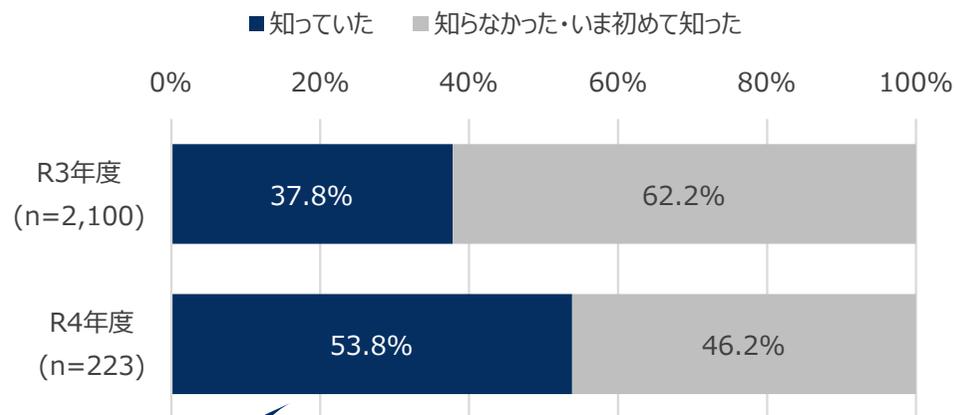
## 登山道維持のために協力してもよい行動は、令和3年度に引き続き、「登山道を傷つけない」が最も多く約9割、次いで協力金の支払いが7割以上。

Q 北アルプス南部地域の登山道を今後も持続的に維持していくために、皆様に協力いただけることとして、例えば次のような行動があります。あなたが協力してみたいと思うものをお選びください。（いくつでも）

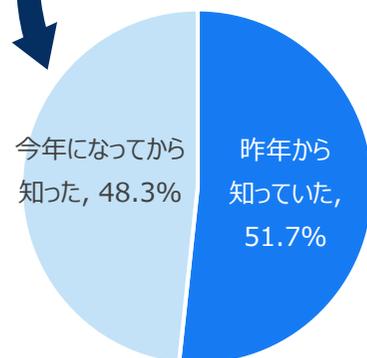


## 取組の認知度は令和3年度より高まり5割を超えた。そのうち、昨年から知っていた人、昨年も寄付金を支払った人が過半数を占めた。

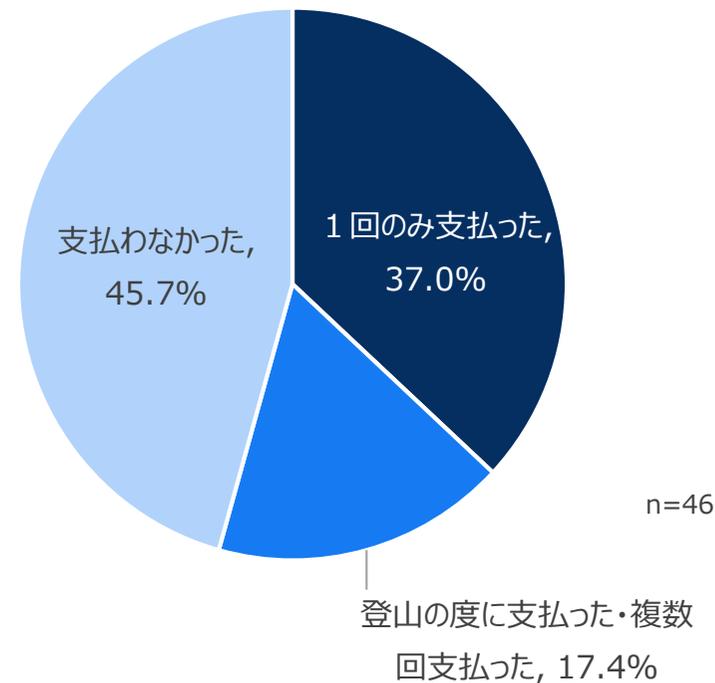
Q 北アルプス南部地域で、登山道の利用者に協力金をお支払いいただく取組を実施していることをご存知でしたか。  
(1つだけ)



「知っている」内訳



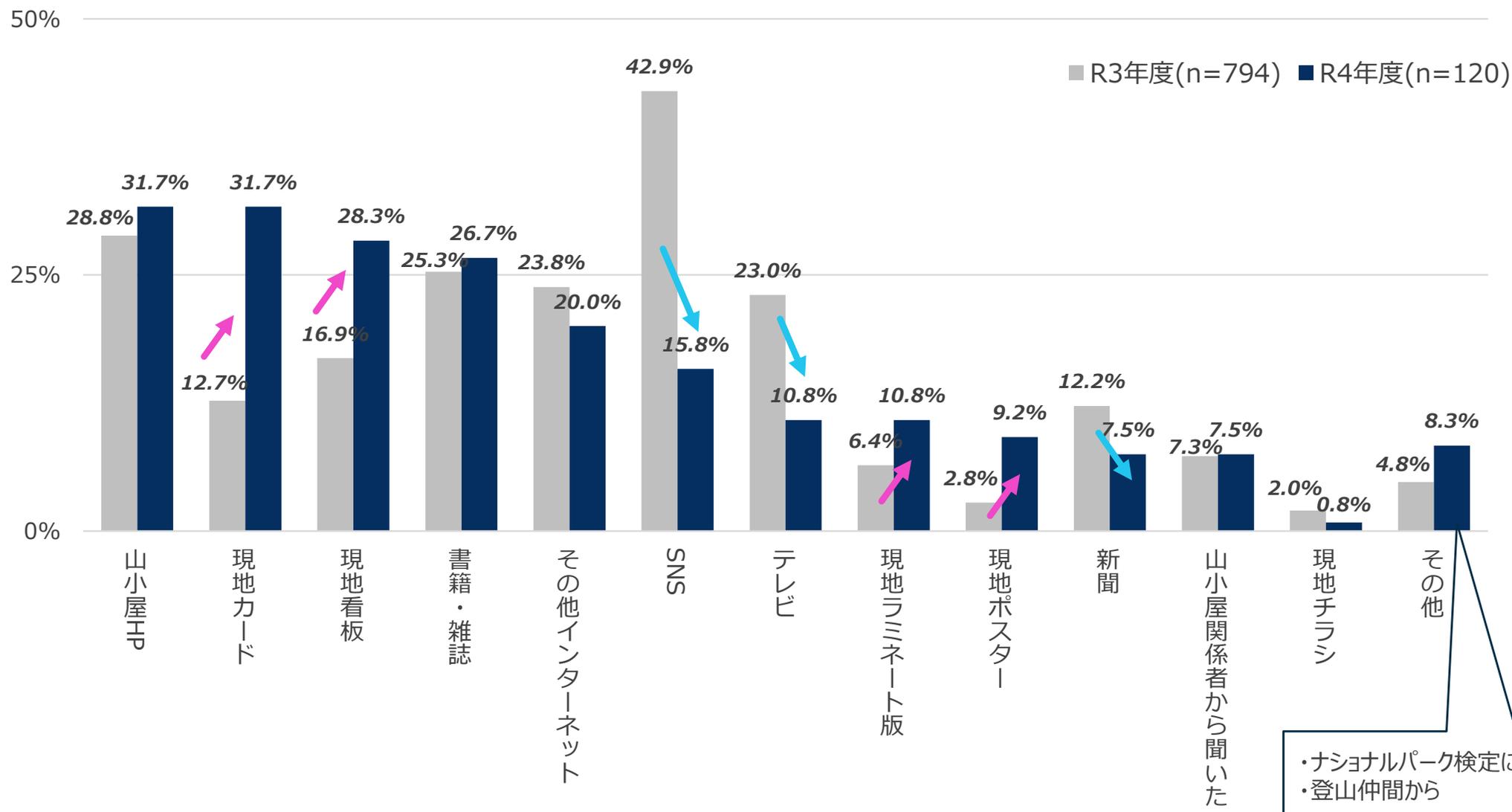
Q 昨年、寄付金をお支払いいただきましたか。(1つだけ)



「知っている」人のみ

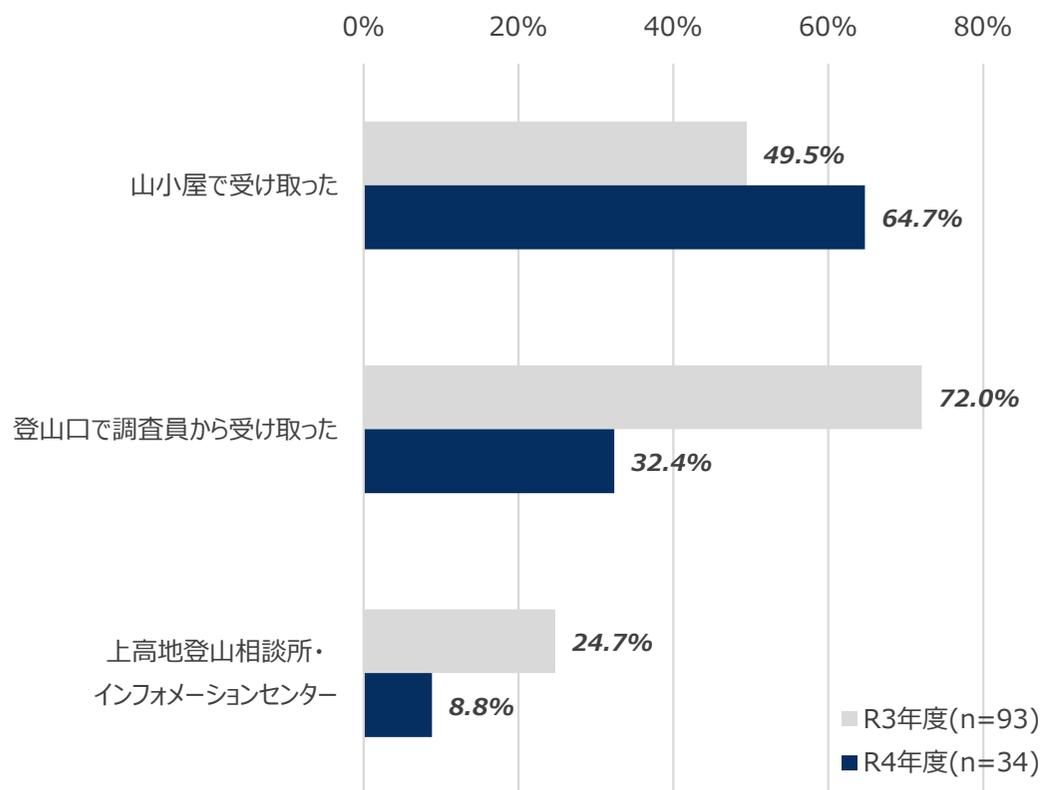
取組を認知したきっかけは、「山小屋HP」と「現地カード」が同率で最多、次いで「現地看板」、「書籍・雑誌」となった。現地に設置した媒体の割合は増加した一方で、SNS、テレビ、新聞といったメディアの割合は減少した。

Q 今回の取組のことをどこで知りましたか。(いくつでも) ※取組を知っていた人のみ

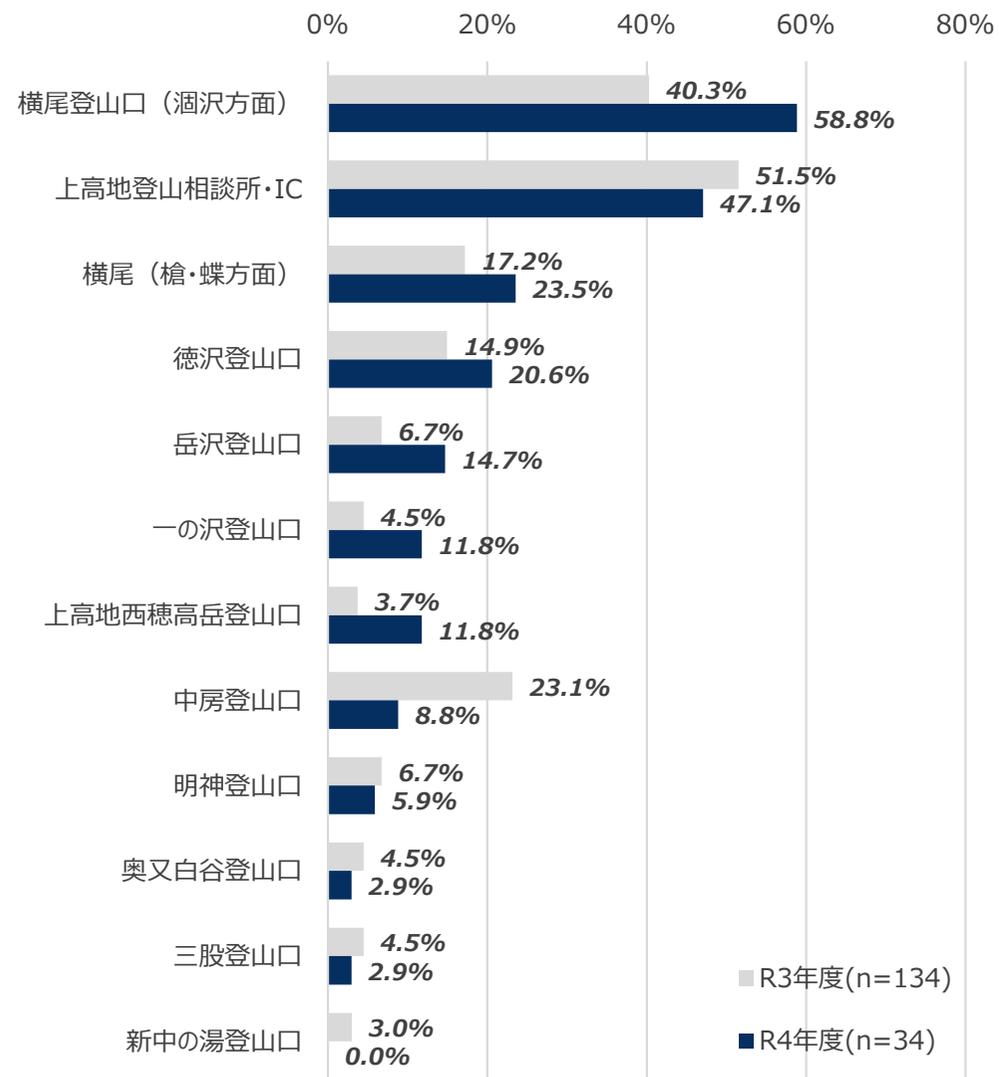


# カードは令和3年度から順位が逆転し「山小屋で受け取った」が最多、看板は「横尾登山口（涸沢方面）」、「上高地登山相談所・IC」が引き続き上位。

Q 「カード」で知った方へ、具体的な場所を全てお選びください。  
（いくつでも）

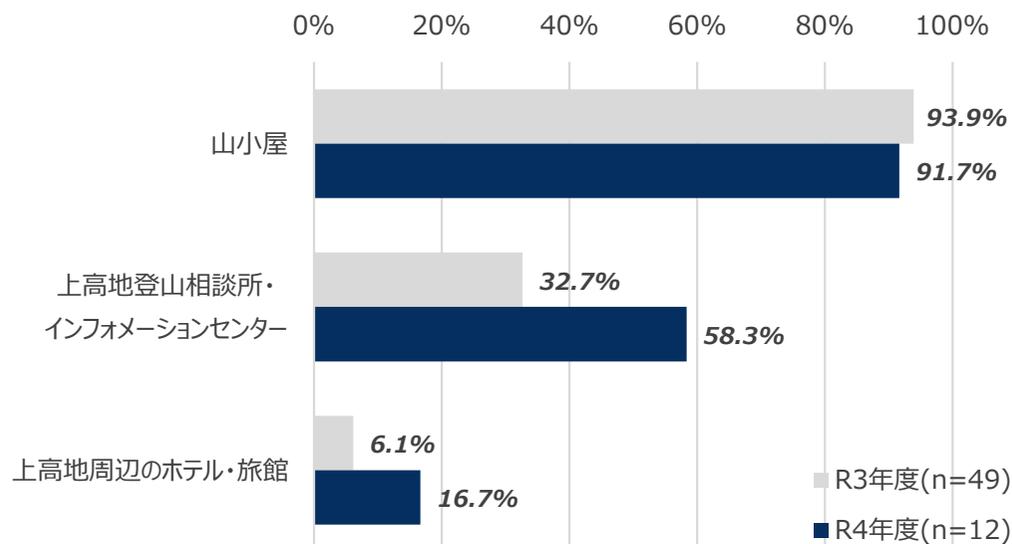


Q 「登山口などに設置された立て看板」で知った方へ、看板を見た登山口を全てお選びください。（いくつでも）

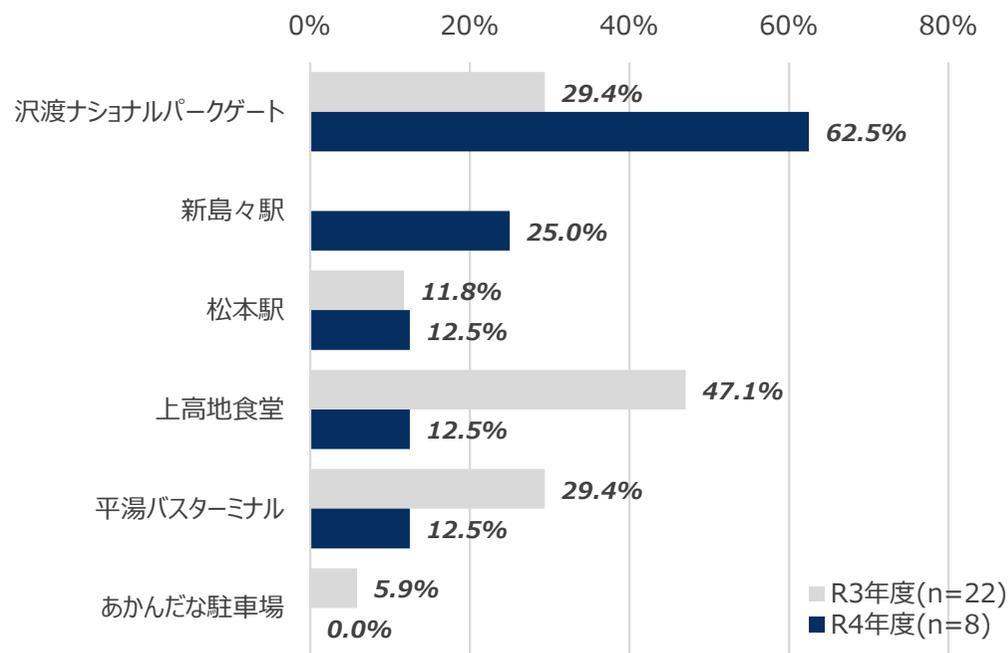


## ラミネート版は、引き続き「山小屋」が9割以上、ポスターは沢渡ナショナルパークゲートの割合が高まった。書籍・雑誌では、『山と溪谷』が多い。

Q 「ラミネート版」で知った方へ、ラミネート版を見た場所を全てお選びください。（いくつでも）



Q 「ポスター」で知った方へ、ポスターを見た場所を全てお選びください。（いくつでも）

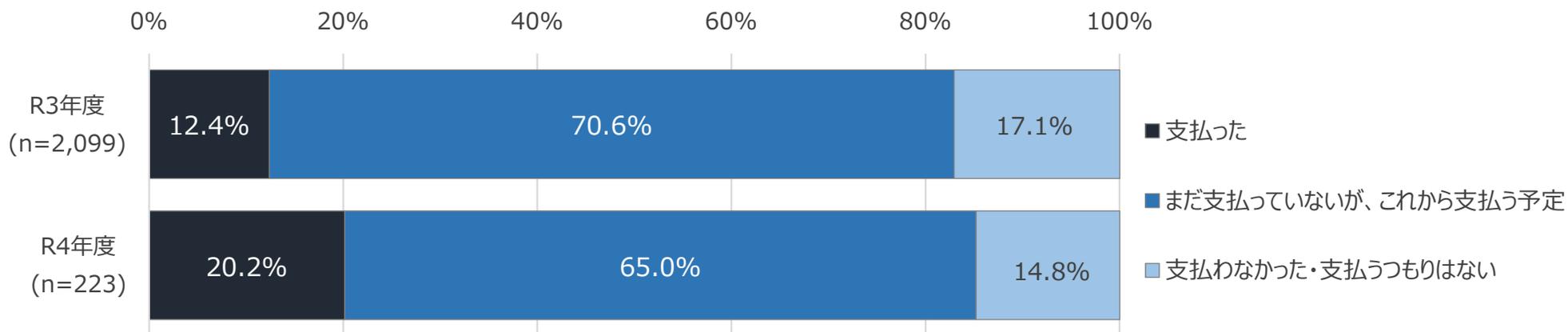


Q 山岳・登山に関する書籍・雑誌名を具体的にお書きください。

書籍・雑誌名	回答数
山と溪谷	27
PEAKS	6
岳人	7
ROCK & SNOW	2
ランドネ	1
モンベルのOUTWARD冊子	1

## 協力金は「支払った」が2割、「これから支払う予定」が6.5割。 支払いの方法は「山小屋協力金箱」が最も多く、次いで「クレジットカード」と令和3年度から 順位が逆転した。

Q 「北アルプストレイルプログラム」の実施期間中（2022年4月27日～）は、対象登山道の利用有無にかかわらず、どなたでも協力をしていただくことができます。実施期間中に、登山道維持協力金をお支払いいただけましたか。もしくは、支払う予定がありますか。（1つだけ）



Q お支払いいただいた方法をお選びください。（1つだけ）



Q お支払いいただく予定の方法をお選びください。（1つだけ）



**支払いの金額は、平均で2,232円。**

**金額帯では、1,000円台が最も多く、次いで500円台となった。**

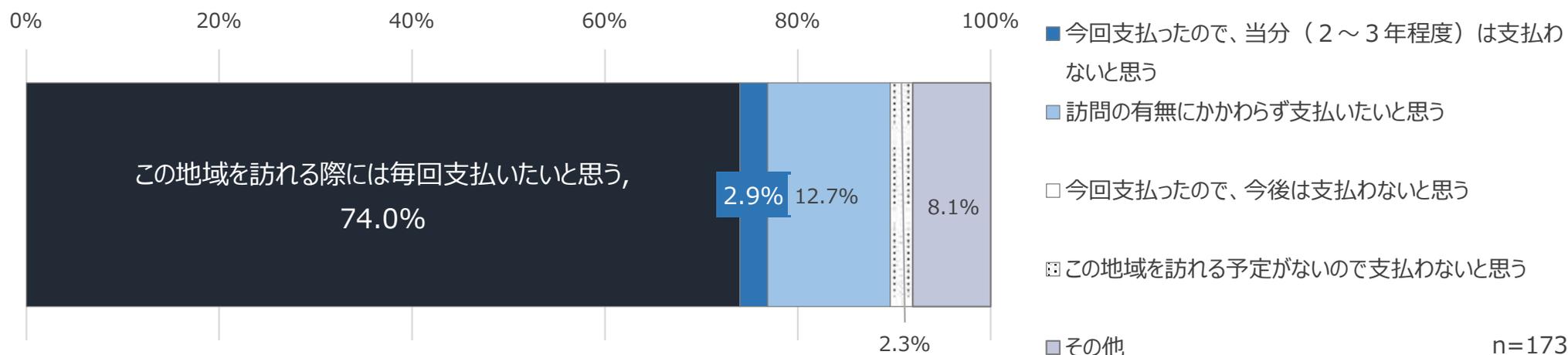
- Q お支払いいただいた金額/お支払いいただく予定の金額をご記入ください。  
 ※複数人数分をまとめてお支払いいただいた方は、1人当たりの金額をご記入ください。

	R3年度	R4年度
有効回答数 (件)	1,738	189
平均値 (円)	2,308	2,232
中央値 (円)	1,000	1,000
最小値 (円)	100	100
最大値 (円)	100,000	100,000

金額帯	R3年度		R4年度	
	件数	割合	件数	割合
0~499円	26	1.5%	5	2.6%
500~999円	432	24.9%	63	33.3%
1,000~1,999円	757	43.6%	80	42.3%
2,000~2,999円	119	6.8%	10	5.3%
3,000~3,999円	134	7.7%	8	4.2%
4,000~9,999円	135	7.8%	13	6.9%
10,000~24,999円	129	7.4%	9	4.8%
25,000~50,000円	4	0.2%	0	0.0%
50,001円以上	2	0.1%	1	0.5%

## 今後の協力金の支払い意向は、「この地域を訪れる際には毎回支払いたいと思う（74.0%）」が最も多く、「訪問の有無にかかわらず支払いたい（12.7%）」が続いた。

Q 今後も協力金は継続して集められる予定ですが、あなたは今後とも協力金を支払われる意向がありますか。（1つだけ）



- 今後仕事を始めてから考えようと思う。
- その時々に応じて
- 回答に自分に適するものがない
- 1年に1度支払う
- わからない
- しばらく海外移住のため
- 余裕があるときに協力したい

- 取り組み詳細を理解したので次回からは支払いたい。看板だけでは内容把握出来なかったので保留した。
- 訪れた際に現金払いでステッカーなどの少額の景品があればいいなど。
- 義務化するべき
- 寄付しようかと思ったが個人情報の記入が多すぎ躊躇した。
- 保全には費用がかかるので支払う意思はあるが、南部地区だけに払うことに違和感がある
- 今後、この地域を訪れるが、支払う予定はない。訪れる目的は、山を知るためであり、お金を支払うことが目的ではないから。お金を支払うことで登山道がよりよくなるとは思っていない。登山道整備にお金が必要になり、そのお金をどのような事業で稼ぐか考えることが本質的な課題であると考えている。

## 登山道維持協力金として、1人1回あたりの金額は、 500円台が46.7%、1,000円台が43.0%となった。

Q 今回は、一口500円のお支払いを基準としていますが、導入や金額は関係者で検討しています。  
今後、あなたが北アルプス南部地域で登山をする時、登山道維持協力金として、1人1回の登山につき、いくら支払ってもよいと思いますか。

	R3年度	R4年度
有効回答数（件）	1,824	135
平均値（円）	974	902
中央値（円）	1,000	1,000
最小値（円）	100	300
最大値（円）	10,000	5,000

金額帯	R3年度		R4年度	
	件数	割合	件数	割合
0~499円	56	3.1%	1	0.7%
500~999円	653	35.8%	63	46.7%
1,000~1,999円	972	53.3%	58	43.0%
2,000~2,999円	77	4.2%	10	7.4%
3,000~4,999円	39	2.1%	2	1.5%
5,000~9,999円	16	0.9%	1	0.7%
10,000円~	11	0.6%	1	0.7%

- 北アルプストレイルプログラムに対する意見や感想を自由回答で尋ねた結果、130件の回答が得られた。
- 回答を分類すると以下の通り。詳細は付属資料に掲載。

### 賛成・応援の声：45件

- 北アルプスはとても魅力的なので、今後も何度も行きたいと思っています。大好きな北アルプスをこれからも登れるようにも、自分が協力できることはしていきたいと思っています。
- 登山道の整備には、多くの手間と費用がかかります。登山者が安全に道迷いなく山行を楽しむには、それなりの負担をしても理解していただけだと思います。単年度で終わることなく継続されますようお願いいたします。

### 全員からの徴収・入山料：33件

- これだけ登山がポピュラーなものになり、環境、災害、マナー等の問題もあり荒廃してしまうと取り返しのつかないことになるので早め早めの対応が取れるよう特に人気の高い北アルプスは入山料制度として採用すべき。
- 協力金とするのではなく、一律に強制的に徴収しないと、不公平となる。

### 取組の周知／結果報告：14件

- 協力金を募ることはニュースで知っていたが、一ノ沢登山口では求められなかったし、夜行バスや山小屋の予約でもその告知はなかった。そのため今回は全く知らずに払いそびれた感じです。残念。事前にもっと周知し、富士山のように登山口に関所を設けて、もっと積極的に募ったほうが良いと思います。トイレチップも払わない人もいると思うので、だったら初めから500円くらい前払いを登山口でするとか、とにかく周知と人の配置は必要です。
- 山小屋へ支払っている料金のうち、何%くらいが登山道維持に使われているのか知りたい。

### 協力金以外の参加方法：8件

- 初心者でも参加できるボランティアツアーがあれば是非とも参加したい。
- 協力金の収支を公開する、支払う窓口を増やす、金銭的な協力と、人的な協力を広げてみてはいかがでしょうか。登山道の整備には本当に頭が下がります。ありがとうございます。

### 上乗せ／クラウドファンディング／ふるさと納税／年間パスポート／その他：7件

- 例えば三俣山荘の伊藤新道を復活させるためのクラウドファンディングは目標金額に対して大きな達成金額となっていることから、こういった動きへの関心は高くなっていると思いますので、持続的な寄付と合わせて活用すべきだと感じます。
- ①宿泊代＋協力金500と、明細を明らかにして、徴収する。②1～12月の間の山小屋利用領収書を提示すれば、その年の2度目以降の徴収は、無し(つまり、徴収は年1回)。③②のことを月1回とする。

### 登山マナーの啓発：3件

- トレラン競技者のような登山道を走る行為について、各自のマナーに依存する無法状態は、事故を誘発する遠因となる危険を感じます。詳しい現状を知らず勝手な意見かもしれませんが、登山道整備に限らず、地域の安全を守るための指導も含めたプログラムであることを望みます。

### 行政への要望：7件

- 官主導では何もうまくいかないと懸念する。国立公園にもかかわらず他国と比較して予算規模が小さくレンジャーも少ない。最も登山者が多い北アルプスでさえこのような状況。これを招いているのは国であり、地方自治体。そもそもこれだけの広域に対し予算規模1600万は少なすぎる。(中略) 金を集める前に持続可能な目標値を最初に提示すべきである。あらゆる想定質問にまともに答えていない問い合わせ集をみて、担当される方々のおよび腰が透けて見え、絶対にうまく行かないとおもった。

### 収受の場所／支払い方法：27件

- 上高地バスターミナルに寄付箱とかがあればきふしやすい。財布も出しやすいから。
- バスやタクシー、ロープウェイ、登山口などもっと協力金を支払える場所を現地付近で増えてくるといいと思う。
- ・支払い方法をもっと増やしてもらいたい。(クレジットカードの番号を入れるのは不安) ・電子マネーの方が気軽に寄付できる。(paypayを希望)
- 登山道維持の取り組みは知っていたが、宿にパンフレットもないし、私も聞けなかったが宿に募金箱があればいいできた。次回2回分払います。

### 記念品・特典：3件

- トレラン競技者のような登山道を走る行為について、各自のマナーに依存する無法状態は、事故を誘発する遠因となる危険を感じます。詳しい現状を知らず勝手な意見かもしれませんが、登山道整備に限らず、地域の安全を守るための指導も含めたプログラムであることを望みます。

## ■賛成・応援

大変有意義な取り組みだと思う。	50代	男性
登山道が整備されていて有難かったです。できる範囲で協力したいと思っています。	40代	男性
可能な限り協力したい。	60代	男性
国立公園なのに、行政の関与が薄く山荘が尽力していることに感謝しております。登山が好きなので、少しでも協力できればと思います。	40代	女性
プログラムについて初めて知りました。行政がすべき作業を民間の方々でされるのは大変な任務だと思います。登山を趣味にしている者として、できることがあれば協力させていただきたいと思っています。	50代	女性
北アルプスはとても魅力的なので、今後も何度も行きたいと思っています。大好きな北アルプスをこれからも登れるようにも、自分が協力できることはしていきたいと思っています。	40代	男性
良い試みだと思います。応援したいです。	60代	女性
いつも維持活動頂きありがとうございます。毎回来た時の感動できるのは皆様のおかげだと思うと頭が上がりません。私も協力できることはしたいと思いました。これからも素敵な上高地を後世に伝えてほしいです。	30代	男性
素晴らしい取り組みだと思う。登山道維持や環境保全は大切な事なので協力して行きたい。コロナで大変な状況ですが、毎年山小屋を利用して頂いています、いつも感謝しています。	50代	女性
厳しい登山道なので北アルプストレイルプログラムは安全登山に繋がる良い活動だと思います。徴収のやり方も気持ちの有る人だけでなく、幅広く徴収する事も検討して下さい。整備された登山道は歩きやすいです。	60代	男性
いつも快適な登山道、山小屋整備をありがとうございます。我々登山者も意識を変え、日本の山事情をしっかりと理解し、1人1人何が出来るか実践していきます。	40代	男性
ほかの山域も含めて、当たり前の活動になるといいなと思います。いつまでも自然の素晴らしさを保つためにも。	40代	女性
頑張ってください感謝しております	50代	男性
テレビで横尾山荘の方が話されていて、登山道維持の問題点を知りました。登山を楽しむばかりで、環境保全のため、何もできていないことに気がきました。取組をありがとうございます。	50代	女性
これから登山人口の高い割合を占める、団塊の世代の人口が減少していく中、異常気象等の影響もあり、自然と共存していくことはより厳しくなることでしょけれど、頑張ってください。自分にはできることは心がけて行きたい。	50代	女性
主旨大いに賛成。遅きに失した感。最大限の協力を惜しみません。	60代	男性
安心して登山を楽しめるのは、山を整備してくださっている方、山小屋を運営してくださっている方のおかげです。登山を始めて本当によく分かりました。深謝しています。微力ながらプログラムを継続的に応援させていただきます。	40代	女性
コロナで小屋閉鎖等いろいろ大変ですがこれからも出来る限り支援させていただきます	50代	男性
富士山より魅力のある所だと感じています。富士山以上にお金を徴収して下さい。	40代	男性
道があり山小屋があるおかげで自然や山を楽しめるので、協力金は積極的に集金できる仕組みを取っても良いと思います。	50代	女性
山を登山道を守るとても良いプログラムだと思います。日本は寄付の意識が低いですが、このように協力金として呼びかければ、登山者も参加しやすくなります。	50代	女性
近年の自然災害多発で倒木、土砂崩れ箇所を多く見かけます。新しい木、石などで補修されているとご苦労を感じ感謝してます。飴やチョコの包紙があるのを見かける様になりました。スルーしてましたが拾う様になります。	60代	女性
安全のためにも登山道の整備は必要	60代	男性
この場所が好きでほぼ毎年来ています。先日は北穂小屋が最高でした！ありがとうございます。	50代	女性
整備していただいているおかげで、無事に下山出来ました。ありがとうございます。	50代	男性
登山道の整備は大変だと思います。遭難なく無事に下山でき、いつも感謝をしながら歩かせて頂いております。	60代	女性
安全登山に欠かせない登山道の維持のためには、必要な取り組みとしますので、今後もぜひ協力をさせていただきたいです。	40代	女性
豊かな自然や美しい山岳風景を楽しむことは「ただで出来る」という考え方は、もう卒業しなければいけないと思う。次世代へきちんと引き継ぐために、相応の負担や縛りは不可欠と思う。	60代	女性
富士山も協力金を支払いました。低い高い関係なく支払ってもいいと思います。	40代	女性
圧倒的な大自然の中で不自由なくいつも大変充実した時間が過ごせています。トイレのチップを少し多めに払うくらいしか出来ませんが機会あれば何かしら協力したいと思っています。	40代	男性
整備ありがとうございます。	40代	女性
登山道の整備には、多くの手間と費用がかかります。登山者が安全に道迷いなく山行を楽しむには、それなりの負担をしても理解していただけたと思います。単年度で終わることなく継続されますようお願いいたします。	60代	男性
山の維持にもお金がかかるので登山を楽しむ方が薄く広く負担することで、今の自然を後世に残す事が出来ると思います。そんな仕組みを導入して欲しいと思います。	50代	男性
費用が小屋の売上から出ているなど具体的なことを考えたことがなかったですが、直接お金はかからなくても時間をかけてくださっていることは容易に想像できました。ありがたく思います。	40代	女性
登山をなるべく長く楽しみたいので、協力金を支払うだけでなく、現状をよく知り、問題点や改善点の把握から、自分にできることを考えていきたい。	50代	男性
不公平だと反対意見のある「全ての登山者、登山口、縦走者から取れない、全員から取れないなら反対」に惑わされず、受益者負担を基本に、まずは取れるところから取って行って、早く登山する人が払うのは当たり前の風土になっていくことを願っています。	40代	男性
海外みたいに入山者の人数規制や費用徴収を行い、自然保護や環境保全にもっとお金を使っても良いのでは無いでしょうか？ 魅力的な場所なら費用も安く感じることにしたいと思います。	50代	男性
北アルプスのすばらしい景色と安全な登山道を残していきたいよう！山小屋の皆さんに感謝です。	70代以上	女性
いつも整備していただいているおかげで、快適に散策することが出来ていると感じています。また絶対に行きたいと思っています。	30代	女性
いい取り組みだと思います。自分の技術的に登れない山が多いですが、より自然に近い形で整備されればと思います。	30代	女性
最近、単独行です。いつも整備ありがとうございます。	60代	男性
今回初めてこのような取り組みを知りました。登山者として支援したいと思っています。	40代	男性
登山道の維持、整備は凄く大変だと思います。整備されている方には頭が下がる思いです、自分も登山しながら何か出来ることがあればやって行きたいと思っています。	50代	男性
国内で最も安全に歩ける登山道を整備してくださり、感謝しています。この便利さの良さ悪しについて、思う事はありますが、山小屋独自にお任せでなく、しっかりした体制で現状維持出来る事が望ましい気がします。	60代	女性
登山道維持、大変な作業だと思います。ありがとうございます。少しでも、自分ができるところを実践して行きます。	50代	女性

## ■協力金の支払い以外の参加方法

登山道整備参加者を募る案に興味がありますが、天候や日程が限られてしまうのは難そうです。	40代	男性
初心者でも参加できるボランティアツアーがあれば是非とも参加したい。	70代以上	男性
今年、大雪山登山道の整備プログラムに参加しました。その整備の自然に即した整備の方法に感心しました。各地の登山道で同様の問題が生じていると思います。横のつながりも重要だと思います。	60代	女性
登山をして最初は登るのに精一杯でしたが、最近は登山道や森林整備などすることで登山者が増えないのかな？もう少し森林整備することで景観が良くなるのにと考えることが多くなりました。北アルプスはまだ行ったことはありませんが登山道整備など何かに参加することはできないのでしょうか。そんな機会があれば是非参加してみたいです。	40代	女性
エコウォークなどあれば参加してみたいです。	50代	女性
協力金の収支を公開する。支払う窓口を増やす、金銭的な協力と、人的な協力を広げてみてはいかがでしょう。登山道の整備には本当に頭が下がります。ありがとうございます。	40代	男性
良い取り組みだと思う。整備等のプログラムがあれば参加したいと思う	60代	男性
登山道補修のボランティア募集、募集時期を 広く告知して欲しい。	70代以上	男性

## ■行政への要望

官主導では何もうまいかないと懸念する。国立公園にもかかわらず他国と比較して予算規模が小さくランジャーも少ない。最も登山者が多い北アルプスでさえこのような状況。これを招いているのは国であり、地方自治体。そもそもこれだけの広域に対し予算規模1600万は少なすぎる。利用する側としてはあの素晴らしい体験をさせてくれる山や山小屋の方々への感謝の気持ちでいくだけでも払いたいが、国や多数の観光客を受け入れている地方自治体がどのようにすれば当事者である山小屋が維持でき、登山者が遭難せず、子供達に安全な登山体験を通じて自然の偉大さを教えていけるのか、金を集める前に持続可能な目標値を最初に提示すべきである。あらゆる想定質問にまともに答えていない問い合わせ集をみて、担当される方々のおよび腰が透けて見え、絶対にうまく行かないとおもっ資金は大切だが、限りがある。登山者を巻き込んだ整備の仕組み、法整備が必要。	40代	男性
国の予算措置の充実も進めるべきだと思う	50代	男性
受益者負担も必要だが、国は根本的に税金の使い方などをあらためた方が良くと思う。もっと登山道整備に回せるお金があるはず。	50代	男性
登山道維持の問題は、個人の協力金という形よりも、もっと根本的な解決法が必要だと思います。欧米のように行政と連携して持続可能な形を築くことが必要不可欠だと思います。そして、協力金という形ではなく、将来的には入山料みたいな形で、観光で上高地を訪れる人やツアー客も必ず払うシステムにした方が良くと思います。山域に入る人全員が500円を払う位なら、十分受け入れられると思います。何よりも重要なのは、その意味を訪問者が理解できるように伝えることだと思います。	40代	女性
コロナ禍で行動制限されるため登山回数がぐっと減りました。収益が減少している小屋に登山道維持、救助体制など依存しすぎ。国立公園なので国が民間委託もしくは山小屋に管理費を支払うべきなのでは？ 入山課金・ふるさと納税賛成です。	60代	女性
いつもありがとうございます。北アルプスは他の山域に比べてもはるかに整備されていて登山の楽しみを増やしてくださるのに、民間小屋の収益から負担されるとはおもいませんでした！何をしてるんだ、環境省と国交省！登山者として、北アルプスも富士山みたいに入山時協力金1000円を取れば良いのに、とおもってました！ぜひ導入しましょう！	40代	女性

## ■山小屋運営

鎖場やはしが新しく整備されており、安全に登山できたことに感謝しております。テント場の値段が白馬岳よりも2倍高く設定されていたので、さらに協力金が必要となるだけの整備費が必要なのか、と疑問に思う気持ちもあります。しかし、近年の災害の多さなどで、登山ができなくなるぐらい厳しい資金環境となっているのであれば、登山者としては適切な協力金の値段設定のもと、支払う義務はあると思っています。	30代	女性
--	-----	----

■整備水準

登山道の管理、ありがとうございます。いつもありがたく思っています。ただ、あまりに整備されると山歩きの醍醐味が薄れるかなと感じます。たとえば新村橋～横尾など安全な区間は、野趣を残す感じで良かったなと思いました。	50代	女性
--	-----	----

■全員から徴収・入山料

これだけ登山がポピュラーなものになり、環境、災害、マナー等の問題もあり荒廃してしまうと取り返しのつかないことになるので早め早めの対応が取れるよう特に人気の高い北アルプスは入山料制度として採用すべき。	50代	男性
協力金(500～1000円)は入湯税のように小屋泊、テント泊の利用料とは別に支払ってもらえば、多くの登山者の協力が得られると思う。税金ではないので強制徴収は法律的に難しいのかも知れませんが、理解は得られやすい。	60代	男性
全員から一人500円を徴収すれば良い。	70代以上	男性
金額は考える必要があるが、入山料は強制徴収としてもよいのでは。縦走などもあるのでカウントの仕方はどうなるのだろう？。個人的な意見ですが登山者からは概ね理解を得られる気がします。	50代	女性
協力金とするのではなく、一律に強制的に徴収しないと、不公平となる。	60代	男性
実際トイレの料金も払わない人もいるので、入山料を取った方が良いと思う	50代	女性
海外の国立公園などでは、利用者負担が常識であることと、入山人数がだんだんと増え環境容量とあわなくなってきたことを鑑み、協力金ではなく、利用料として、入山する際に必須とすべきと思います。そのほうが、公平感もあり、かつ、自然を利用(享受)するには、自然環境に相応のコスト(負荷)をかけることを個人が自覚するにも良いと感じます。	40代	女性
登山道の整備は、登山者の安全にかけがえのない。公的な支出も勿論大事ですが、登山者全体で、負担することも必要。日帰りの方も含めて、維持費を徴収すべき。	60代	男性
北アルプスの入場料として、1人一回最低1000円程度取って良いと思う。登山者は北アルプスには遠くから訪れていることも多く、整備を実際に継続的に手助けしに行くことは難しいため、せめてお金で助けたい。入山料として義務で取れば、かなりの額になると思う。	10～20代	女性
利用者や登山者から必要な費用を賄うために入山料的な費用を徴収しても良いと考える	60代	女性
登山口などで登山者ほぼ全員が支払うような維持金を徴収するようにしたい。支払わない人が多いと思う。今のやり方は目立たないし、登山者マナーを高めるためにも維持金支払いが当たり前になるようにすべきと思う。	50代	男性
神奈川県内の山でもトイレチップさえ入れようとしないう人が多く、他人に対して驕慢なもの言かもしれないが「トイレのドアを開けるためには幾ばくかでもコインを入れないと開閉しないドアなど工夫が必要ではないか」と友人と話している。勿論強制的に金銭を回収するのはどうかという意見があることも承知してはいるものの便利や快適を提供してもらうために自身も負担しなければならないということを知って貰う必要があるように思っていた。他県から訪問する者にとって当然何がしかを負担するに吝かでない。	60代	女性
いつも登山道の整備に感謝しながら登っています。コロナで大変な状況だと理解しています。恩恵を受ける全ての登る人から少額の寄付金をもらうべきだと思います。これからは登りやすい北アルプスでいてほしいです。	60代	女性
入山料を徴収することにしたらどうか。	70代以上	男性
受益者負担だと思いますので、確り入山料を集金する仕組みに出来ると良いですね。	50代	男性
安全な登山の為に入山料を支払うことは登山者として当然のことだと思います。これまでに無かったことが不思議でなりません。しっかり徴収できるシステムを考えてみたいと思いました。	60代	女性
登山道は人の手で整備されていることを、その為には費用が発生することをもっと広く周知してもらおう事が肝要です。入山料(他国の様に)として、これは行政側にももっと早くから実施しなければいけない問題とっております。	70代以上	男性
登山道を整備してくださっている皆様のおかげで安全に登らせていただいています。高速道路を利用するには高速料金を支払います。お山も同じことだと思います。個人的には利用料を支払って登山道に入るのもありだと思っています。	50代	女性
素晴らしい景観の地域なので心身ともにリフレッシュでき 初心者から上級者まで楽しめる地域。海外からの人にも自慢できる日本の宝。海外でも予約制のところがあるので 今後人数を絞って入山するシステム(予約)にするのは良いことと思う。このままだとどんどん崩れて行ってしまえそう。しっかりした財務管理者の資質が問われるかもしれないが それによって良い方向に進めば 素晴らしい自然を維持できると思う。	60代	女性
入山料を徴収する。	60代	男性
小屋のスタッフがレスキューに出勤され、また登山道の整備等に時間を割いておられる現状に頭が下がる想いです。協力費としても全山入山料の検討が必要と思われる。	70代以上	男性
いい取り組みだと思います。登山しなくても、環境維持のために協力するのは良いことだと思います。上高地も、入山料を支払うようにして、トイレチップをなくしたり、徳沢から横尾の道のぬかみみをなくすと取り組みしてもよいとおもいます。日本全国で同じような取り組みができると良いです。安全はただではないということを知るべきだと思います。	40代	女性
人気の北アルプスエリアは夏を中心に多くの登山者が訪れる。その環境を守るための資金を山小屋が持ち出ししているなんてとんでもないことだ。登山道整備していただいているだけでも感謝しているというのに。入山料を取るべきと思う。	50代	女性
登山口で 入山料として強制徴収してもよいと思います。あれだけの人が歩いて登山道が痛まない訳がありません。	50代	男性

■上乗せ/クラウドファンディング/ふるさと納税/年間パスポート/その他

例えば三俣山荘の伊藤新道を復活させるためのクラウドファンディングは目標金額に対して大きな達成金額となっていることから、こういった動きへの関心は高まっていると思いますので、持続的な寄付と合わせて活用すべきだと感じます。美しい日本の山を今後の世代にも残していきたいと考える登山者は多いと思います。	10～20代	女性
山小屋でのアルバイト経験者です。募金はこのままで、クラウドファンディングもやった方がいいです。一気に募金が集まるからです。目標は1年がかかるであろう金額。そして、修理を無償で山小屋職員がやるのはおかしいので、日当を支払うシステムも作るべきだと思います。クラウドファンディングをする前に、山小屋HPなどで告知するといいたいです。	50代	女性
協力金は全ての入山登山者へ支払い義務化してもよいと思います。協力金の使途の公表は必須。釣魚料のような仕組みもあり。年間パスポートと都度支払いの2制度。年複数回行く人は年間パスポート(1000円程度)、1度だけの人は都度(500円程度)	50代	男性
遊園地施設のように全員徴収型のようにした方がよい(観覧車料金やコーヒーカップ料金のように、利用する登山ルートによって料金が変わる)。あるいは、山小屋宿泊料金やテント場料金に登山道維持費用を含めて必須化した方がずっと分かりやすい(例えば京都市内のホテルに宿泊する場合は宿泊代金の他に200円を必ず徴収される)	40代	男性
寄付金の税額控除があれば、より多額の寄付をする気になる。ふるさと納税で、登山道整備につかわれるのなら、それも検討したい。現状のテント場の利用料は、登山道やトイレの利用対価として低すぎるのではないかな。	50代	男性
①宿泊代+協力金500と、明細を明らかにして、徴収する。②1～12月の間の山小屋利用領収書を提示すれば、その年の2度目以降の徴収は、無し(つまり、徴収は年1回)。③②のことを月1回とする。	50代	女性

■収受の場所

バスやタクシー、ロープウェイ、登山口などもっと協力金を支払える場所を現地付近で増えてくるといいと思う。	40代	男性
支援金の支払い場所などがわかりにくかったです。上高地ではどこで支払いが可能なのかわからなかった。	40代	男性
上高地バスターミナルなどに目立つ 寄付金箱を複数設置する。	60代	女性
上高地バスターミナルに寄付箱とかがあればきふしやすい。財布も出しやすいから。	40代	女性
登山口(下山口)などで寄付を募れば集まりやすいかなと思います	30代	男性
燕山荘の受付でカードを手にとって初めて知りました。登山道の観点は北アルプスより里山の方が怖いです。ずいぶん前から議論されていますが入山料の徴収はありだと思います。協力金箱は目立つ位置に設置をお願いします。	50代	男性
・山の環境維持、美しい山を未来に残すため、入山料を徴収して欲しい。・協力金を積極的に呼び掛けてほしい。募金箱をお願いしますでは消極的すぎて切迫度が伝わらない。・協力金を支払う場所が分からないし、気づかなかつた。・予算不足の自治体はふるさと納税を活用して欲しい。	40代	男性
コロナ禍で山小屋の収支が厳しいのは良くわかります。観光客の多い上高地へ入山料として徴求。もしくは、登山者のみを対象とするなら山小屋泊の料金に明示して組み込むか、登山口へ関所のように料金所を設置したらいかがでしょうか？	40代	男性
トイレの整備もありがたく、都度100円を入れていますが、同様に、登山道の維持管理も必要不可欠であり、当然お金もかかることなので、少なくとも登山をする者は登山届を書くと(自宅から送金)、あるいは登山センターや山小屋で、やりやすい方法で寄付をしていくべきだと思います。また、この取り組みは、継続していくことが大切なので、山登りすることには必要だと考えます。また、周知のためには、ヤマケイなど山の雑誌でも大々的にキャンペーンをしていくことも必要かと思えます。「登山道維持にワンコイン」などというキャッチコピーも合わせて。そして、登山者だけでなく、自然に関心を持つ方々にも広がるといいですね。	60代	女性

■支払い方法

コロナで登山の予定は立ちませんが、それまで利用させて貰ったので、応援したいと思っていました。だから、振り込みが出来るのがいいですね。登山するようになれば、山小屋での協力金は○だと思います。	60代	女性
北アルプスは利便性もよく年に数回行くので登山者の一人として保全費用の負担はすべきだと思っている。昨年も感じたが、対面に人がいない寄付金としての徴収方法は、観光客やツアー登山は支払わないのではないかな。受益者負担の観点から考えると、北アルプスという自然資源を利用してツアーを行う事業者からの負担も必要ではないかなと思う。	40代	女性
PayPayや交通系電子マネーで支払えると、簡単で便利	50代	女性
・支払い方法をもっと増やしてもらいたい。(クレジットカードの番号を入れるのは不安) ・電子マネーの方が気軽に寄付できる。(paypayを希望)	50代	男性
よい取り組みだと思います。伊吹山のように登山口で登山協力金を徴収してもらっても良いと思います。今回はじめて知りましたがこの寄付受付のサイトはずっと存続してほしい。カード決済も入力しやすかったです。	40代	女性
全員一律に1,000円程度の入山料を課したら良いと思う。その時は、記念品なしで全額整備に充てて欲しい。終活しているので物は増やしたくないと思っている。いつも現金は最小限持ち歩くようにしているので、電子マネーでの支払いを希望する。今回、少額ですがこのHPで寄付しようと思ったが、個人情報の記入が多く途中でやめた。もう少し、手軽に寄付できるようにしたら良いと思う。	60代	女性

■支払い方法（募金箱）

現地で支払いできる募金箱があまり見つけられなかったので、目立つ場所に置いて良いのではないかと思います	10～20代	女性
登山道維持の取り組みは知っていたが、宿にパンフレットもないし、私も聞かなかつたが宿に募金箱があればいいよ。次回2回分払います。	70代以上	女性
いま思えば、横尾山荘のカウンターに募金箱？のようなものがあつたような気がするが、気に止めなかつた。その箱がこのプロジェクトの募金箱だったのかもしれない。もう少しアピールを増してもいいと思います。例えば、トイレチップの横に別に募金箱を置いたらどうでしょうか？ お金(小銭)を出す時なので、少額でも募金が集まるのではないかと、思います。	50代	女性

■金額

1人500円良いと思います	50代	女性
---------------	-----	----

■取組の周知

協力金を募ることはニュースで知っていたが、一沢登山口では求められなかつたし、夜行バスや山小屋の予約でもその告知はなかつた。そのため今回は全く知らずに払いそびれた感じです。残念。事前にもっと周知し、富士山のように登山口に関所を設けて、もっと積極的に募ったほうがいいと思います。トイレチップも払わない人もいると思うので、だったら初めから500円くらい前払いを登山口でするか、とにかく周知と人の配置は必要です。富士山は好きなので、全く苦でなく協力金の支払いは 出来ますよ。	40代	女性
もう少し発信した方が良くと思う。私の感覚だと山登りしてる人でも このプログラムを知らない人が多い気がします。	40代	男性
登山道整備にかかる費用(人件費、資材費等)を大まかにでも具体例を挙げて提示していただくと、一登山者として寄付金をいくらまで出すべきか判断できるのではないかと思います。	30代	男性
北穂小屋でカードをいただいて初めて知りました。このような地道な啓蒙活動も大切だと認識しました。	50代	男性
登山道を維持するために必要なことを具体的に知りたい。例えば補修方法やそれにかかる金額や、登山者として登山道を痛めないような行動について。	50代	女性
登山道維持が大変な状況にあることを今回の件で初めて知りました。富士山のように(世界遺産に登録された頃、富士宮口でやっていたし、支払いました)登山道入り口に会議机やノボリを置き、大々的に協力金を求めるようなアピールがあれば現状の周知と理解も得られると思います。ワンコイン500円くらいなら、寄付してもいいかなと思えますし、登山道維持に参加した心地良さも残ると思います。	40代	女性
いつも登山道整備の恩恵を受け、ありがたく感じています。自分でもなんらかのお手伝いがしたいと思っていますが、何をすればいいか、さっぱり見当が付きません。クラウドファンディングやお手伝い募集などについて、もっと情報発信して頂けると嬉しいです。	60代	女性
年配者もそうであるが、若者の理解を得られるよう、もっと広報を広め協力金があつて当たり前で有り、それで成り立つ事を理解して貰うが、早急に必要と考えます。登山道を大切に歩く心が大切では。早急に協力金を設定すべきでは。	60代	女性

■取組の結果報告

山小屋へ支払っている料金のうち、何%くらいが登山道維持に使われているのか知りたい。	40代	男性
---	-----	----

■登山マナーの啓発

トレラン競技者のような登山道を走る行為について、各自のマナーに依存する無法状態は、事故を誘発する遠因となる危険を感じます。詳しい現状を知らず勝手な意見かもしれませんが、登山道整備に限らず、地域の安全を守るための指導も含めたプログラムであることを望みます。	60代	男性
富士山のように入山料を支払う方式を導入した方がよいと思います。また、最近ではトレイルランニングがブームで、彼らは自分たちを登山者と思っていないため、それらトレイルランナーにも登山道の維持について協力してもらい体制づくりが必須です（驚くべきことですが、大キレットや奥穂～北穂間のような難関ルートでさえトレイルランニングのコースとして紹介されています）。私の知る範囲では、トレイルランニングの書籍や雑誌の記事には登山道の保護についてはほとんど触れられていないように思います。	50代	男性
今回の長野側ルートとは異なり、この趣旨には外れるかも知れませんが、昨日迄4日間黒部源流域へ行った際に感じたことを書きます。まずは毎回思う事ですが、本当に登山道を整備して下さる方々には感謝しかありません。唯、今回の山行で、写真撮影の為に意識的にルートを外して（斜面を登ってまでも）お花畑に入っている者や、登山道で喫煙している者を見たのは残念でなりません。ストックのキャップ無しも相当多かったです。これについては販売店の協力も必要だと思います。又、自分の技量以上のルート選定や、昨日も北穂高南陵で死亡事故があったように、すれ違いの仕方等根本的に登山のルールを知らない輩が非常に増えています。これはyou tube等で簡単に山に行けると勘違いする動画を見て入山しているような人が多いと思います。今回のプロジェクトも含め、色んな登山の知識をそうした媒体やSNSを使つてもっと積極的に発信して欲しいと切に願っています。	60代	男性

■記念品・特典

・漁協の入漁券みたいに巡回しても良いとおもう。・何でもいから支払った記念が欲しい(協力金支払い済み切符でも良い。写真にでも撮れば当時払った思い出になる)	30代	男性
資金を集めることで少しでも維持活動に貢献できるのであれ良い事だと思う。その際交換した一部の道標などオークションなどで売ってみてはいかがだろうか。または山小屋のグッズなどに協力金を上乗せし、ネット販売も良いかと思う。行かなければ買えないと言うプレミア感も理解するが、行きたくても行けない人はたくさんいると思う。	60代	男性
協力金を提供できる場所を予め明確にしてほしい。上高地インフォメーションセンターにも案内と募金箱を設置するぐらいのアピールが必要と思う。いっそ、高額の寄付には特製ピンバッジでも付与して、堂々と山を楽しめるようにしたら良いのではないかと。	70代以上	男性

■その他

水筒が無くなりました 良くないと思います	10～20代	男性
今後、この地域を訪れるが、支払う予定はない。訪れる目的は、山を知るためであり、お金を支払うことが目的ではないから。また、お金を支払うことで登山道がよりよくなるとは思っていない。登山道整備にお金がいくら必要になり、そのお金をどのような事業で稼ぐかを考えることが本質的な課題ではないだろうか。山に行くのにもお金がかかり、ひとりの登山者としては、山を訪れる我々の負担をなくす活動も考えてもらいたい。	30代	男性
上高地は普段登山しない客も多いからか、トイレのチップを払わない客が多いと感じた。トイレのチップを回収する手段を考えた方がいいのではないかと。	40代	女性
アンケート設問数が多過ぎ	60代	男性

# 現地アンケート調査の結果 支払意志額の推定を中心に

北海道大学 千葉泰史・庄子康・愛甲哲也

- ・協力金に対する支払意志額の推定
    - ・昨年度の寄付金額では支払意志額が不明
      - ・ご祝儀的に寄付金が集まった可能性がある
      - ・今後の収入予測を立てづらい（訪問1回当たりの支払意志額が分かると利用人数とのかけ算で収入が予測できる）
- ※去年までは寄付金と称し、今年からは協力金の名称に変更

# 本年度の調査

3

## ・現地登山者に対する郵送アンケート調査

### ・実施日

- ・ 2022年8月9-15日、9月17-20日

### ・実施場所

- ・ 上高地・横尾山荘およびそこに至るまでの登山道

### ・配布枚数

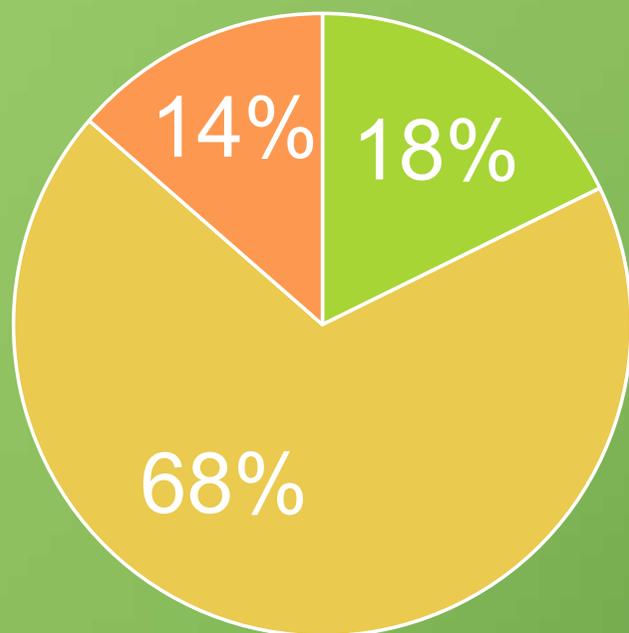
- ・ 8月600部、9月400部の合計1,000部



アンケート調査票  
配布場所  
横尾山荘

# トレイルプログラムの認知度 (n = 433)

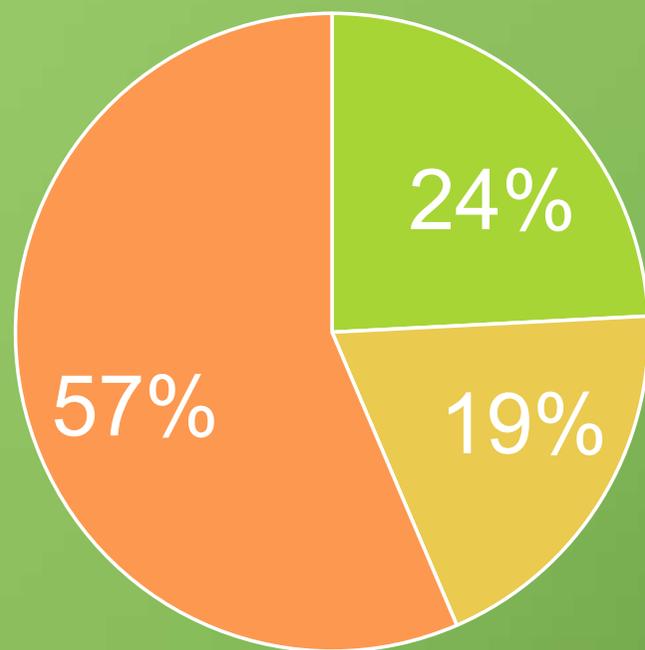
5



- 今年度知った
- 知らなかった・今初めて知った
- 昨年度から知っていた

## 昨年お支払い頂いたか（該当者 $n = 63$ ）

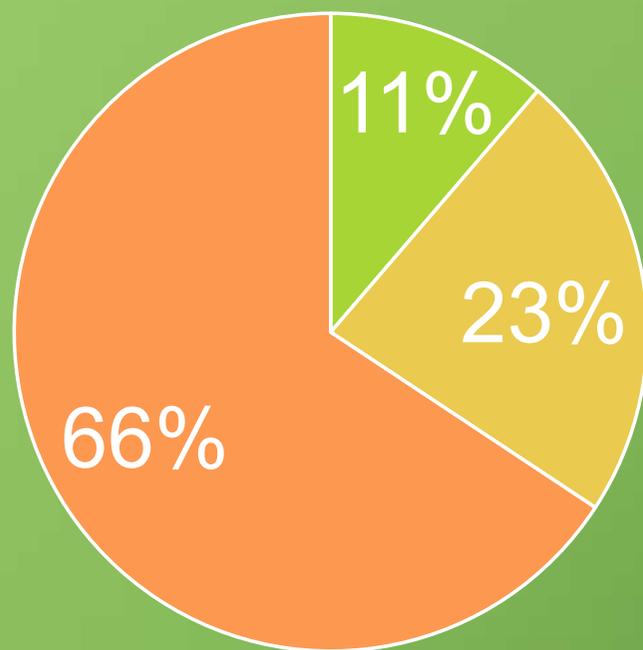
6



- 一回支払った
- 複数回支払った
- 支払わなかった

# 今年お支払い頂いた・頂くか (n = 433)

7



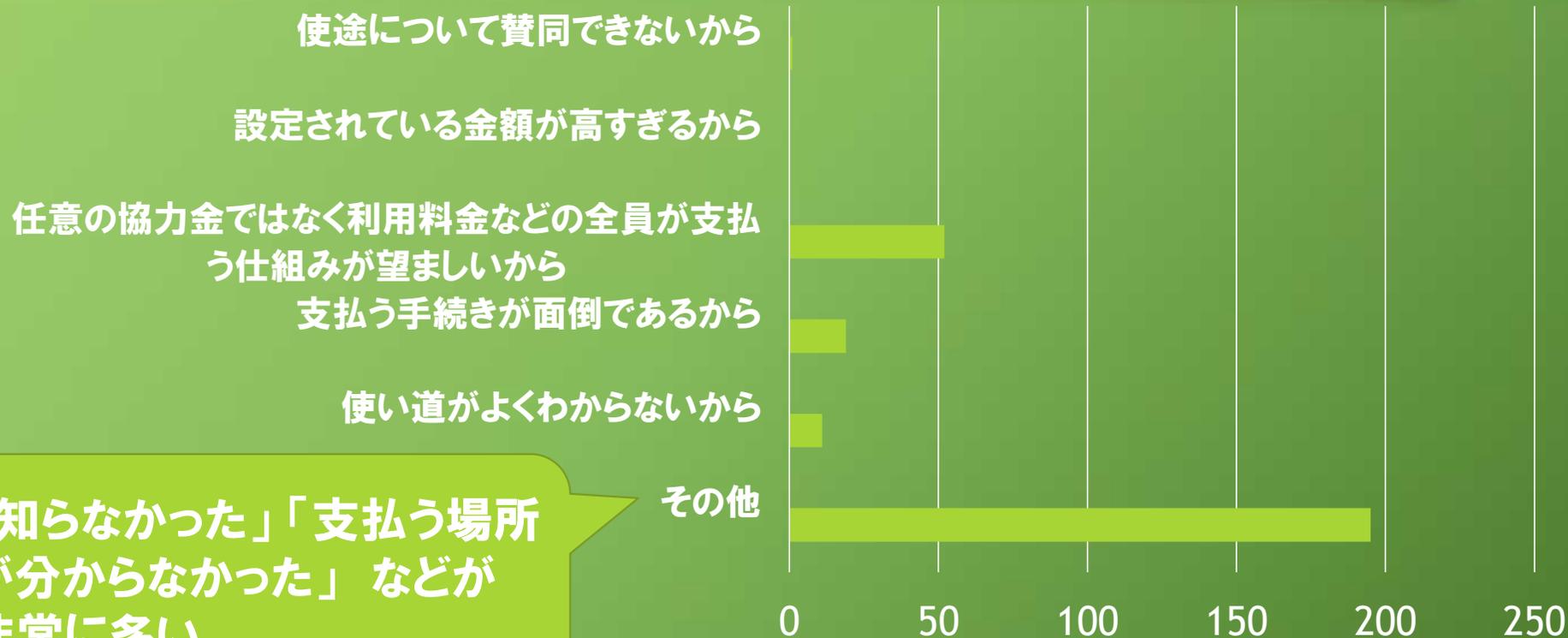
□ 支払った

□ 支払うつもりである

□ 支払っていない(支払わない)

# 支払ってない・支払わない理由（該当者 $n = 278$ ）

8

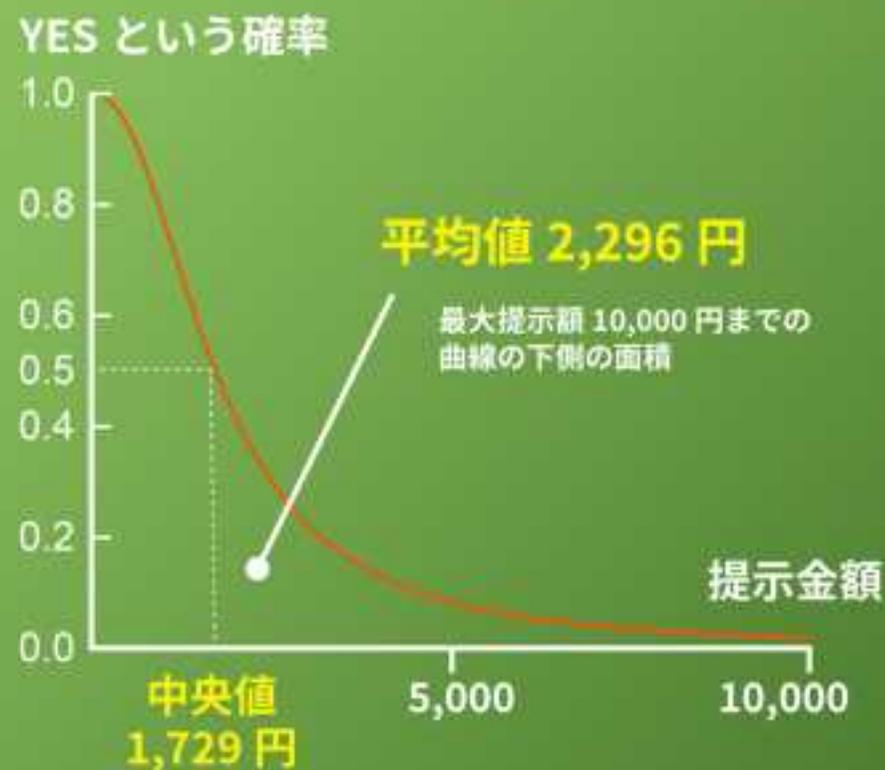


「知らなかった」「支払う場所が分からなかった」などが非常に多い

# 推定された支払意志額 ( $n = 426$ )

9

- 支払意志額
  - 中央値
    - 1,729円
  - 平均値
    - 2,296円(据え切り)



# 今年支払った・支払うつもりのお金額額 (n = 145)

10

- 「支払った」「支払うつもりである」とお答えした方が、  
実際にお支払い頂いた（あるいはお支払い頂く予定の）  
金額

- ・ 1,369円
- ・ 支払った・支払う  
つもりの方の平均値

金額	人数	金額	人数
100円	5人	1,250円	1人
200円	7人	1,500円	3人
300円	5人	2,000円	13人
400円	2人	3,000円	10人
500円	25人	5,000円	7人
1,000円	65人	10,000円	2人

- 支払意志額はかなり高い
  - 仮想的な状況で聞いていることには注意（高めの値）
- 協力金を集める人を配置すれば2,000万円以上集めることができるような支払意志額
  - 1,000円の設定では77.5%が支払うと予想
  - しかし人件費だけで集めたお金は無くなる可能性

- ・屋久島森林環境整備推進協力金の決算（2021年度）
  - ・協力金：2,517万円
  - ・人件費：3,470万円
  - ・雇用関係助成金：1,117万円
  - ・環境に関わる事業費
    - ・し尿搬出：303万円、観察道補修・点検：49万円

- ある程度高い金額設定で必ず支払う方式を導入
  - 収集費用とのバランスが問題
- 人を配置しないで効率的に協力金を集める方法の導入
  - 回収率をどこまで上げられるかが問題
  - 山小屋や野営場の受付で集める方法はあるが、実質的な値上げに見えてしまう

**ご清聴ありがとうございました**

**14**

# 北アルプストレイルプログラムに関する 現地アンケート結果

## 1. 北アルプストレイルプログラム

### 【北アルプストレイルプログラムについて】

北アルプス登山道等維持連絡協議会では、北アルプス南部地域の登山道の持続的な維持のあり方を検討。今年度は先行して取り組める地域として槍穂高・常念山脈エリアを選定し、皆様に協力金をお支払いいただく取組（「北アルプストレイルプログラム」）を実施。

### 【実施期間】

2022年4月27日（水）～

### 【対象者】

槍穂高連峰、常念山脈エリアの長野県側登山道を利用する登山者及び上記の登山道の維持にご協力いただけるすべての方

## 2. 調査概要

### 【目的】

仮想評価法を適用して、訪問1回ごとの「協力金」に対する登山者の支払意志額と北アルプス南部地域に対する登山者の登山地域への愛着を把握すること。

### 【手法】

登山者を対象とした現地実施・郵送のアンケート調査

### 【実施場所】

上高地・横尾山荘・涸沢ヒュッテ、及びそこに至るまでの登山道

### 【実施期間】

2022年8月10日（火）～14日（日）、及び9月18日（土）

### 【配付枚数】

8月に600部、9月に400部の合計1000部

### 【回収率】

447部（44.7%）

### 3. 単純集計結果

簡略化したアンケート調査票を利用し、有効回答数と回答数を各質問に書き加えている。Nは有効回答数、nは分岐時の有効回答数を示している。

問1. 北アルプス南部地域での登山経験について、当てはまる番号に1つ○をつけて下さい。(N=443)

1. 初めて (70人)
2. 二回 (64人)
3. 三～五回 (123人)
4. 六～九回 (73人)
5. 十回以上 (113人)

問2. あなたは北アルプス南部地域に毎年訪れますか？当てはまる番号に1つ○をつけて下さい。(N=426)

1. 毎年訪れる (160人) →問3へ
2. 毎年訪れない (266人) →問4へ

問3. 「毎年訪れる」とお答えした方にお聞きします。それ以外の方は問4にお進み下さい。あなたは平均して、年に何回程度訪れますか？当てはまる番号に1つ○をつけて下さい。(n=162)

1. 一回 (57人)
2. 二回 (52人)
3. 三～五回 (43人)
4. 六～九回 (6人)
5. 十回以上 (4人)

問4. 今回のあなたを含めた訪問人数について、当てはまる番号に1つ○をつけて下さい。(N=437)

1. 一人 (122人)
2. 二人 (172人)
3. 三～五人 (94人)
4. 六～九人 (37人)
5. 十人以上 (12人)

問5. 今回の訪問で、利用した登山道や園地について、当てはまる番号に全て○をつけて下さい。(N=445)

1. 明神～徳沢～横尾（梓川左岸歩道）（377人）
2. 横尾～涸沢（涸沢歩道）（209人）
3. 上高地～岳沢、前穂高岳（岳沢・前穂高岳歩道）（38人）
4. 槍沢～槍ヶ岳、槍沢～水俣乗越～槍ヶ岳、  
槍ヶ岳～南岳（槍ヶ岳歩道）（123人）
5. 三股、横尾、長堀、  
蝶ヶ岳～大滝山～大滝槍見台（蝶ヶ岳歩道）（42人）
6. 一ノ沢、三股、常念岳～東天井岳（常念岳歩道）（21人）
7. 合戦尾根、東沢、燕岳～東天井岳（燕岳歩道）（45人）
8. 涸沢～北穂高岳～大キレット、涸沢岳（北穂高岳歩道）（41人）
9. 涸沢～奥穂高岳～前穂高岳、涸沢岳（奥穂高岳歩道）（84人）
10. 天狗原分岐～天狗原～南岳～大キレット（南岳歩道）（12人）
11. 水俣乗越～西岳～赤岩岳北（西岳歩道）（18人）
12. 大滝槍見台～徳本峠～霞沢岳（徳本峠歩道）（4人）
13. 赤岩岳北～大天井岳周囲（大天井岳歩道）（17人）
14. 大正池～河童橋～明神（上高地周辺の散策路）（122人）
15. 上記以外の岐阜県側・富山県側登山道（登頂した山名：除外）

問6. あなたは北アルプス南部地域についてどのように感じていますか？ 当てはまる番号にそれぞれ1つ○をつけて下さい。

	平均	標準偏差
この地域は私にとって大事だ (N=441)	6.07	1.44
この地域は私にとって特別だ (N=442)	5.86	1.50
この地域が大好きだ (N=443)	6.16	1.47
この地域に強い一体感を感じる (N=439)	4.89	1.45
この地域は私に影響を及ぼしている (N=441)	5.40	1.44
この地域で登山することは自分らしさをよく示している (N=439)	5.18	1.48
この地域は私が登山をする上で最良の場所だ (N=441)	5.30	1.48
私にとってこの地域は最も良い場所だ (N=440)	5.34	1.44
この地域では私のしたいことができる (N=440)	5.28	1.40
この地域の方が他の地域と比べて快適だ (N=442)	5.37	1.43
この地域は他の地域より登山がしやすい (N=439)	5.30	1.49

※1 「全くそう思わない」を1、「とてもそう思う」を7とした7段階の尺度で回答してもらった。

問7. 北アルプス南部地域では、行政機関だけでなく、民間の山小屋が登山道の維持作業を行っていることはご存じでしたか？ 当てはまる番号に1つ○をつけて下さい。(N=444)

1. 詳しく知っていた (54人)
2. 大体知っていた (293人)
3. どちらともいえない (9人)
4. あまり知らなかった (51人)
5. 全く知らなかった (37人)

問8. 現在、登山道の維持管理に必要な費用は、行政などの予算の範囲内ではまかないきれない状況です。この不足分を、民間の山小屋が収益の一部から持ち出して、登山道を維持していることをご存知でしたか？ 当てはまる番号に1つ○をつけて下さい。(N=446)

1. 詳しく知っていた (29 人)
2. 大体知っていた (219 人)
3. どちらともいえない (30 人)
4. あまり知らなかった (92 人)
5. 全く知らなかった (76 人)

問9. 近年、自然災害の多発や新型コロナウイルス感染症の流行など自然や社会の環境変化により、山小屋の経営状況が悪化しています。このことにより、これまでと同様の登山道維持ができなくなる可能性が生じていることをご存知でしたか？ 当てはまる番号に1つ○をつけて下さい。(N=446)

1. 詳しく知っていた (33 人)
2. 大体知っていた (218 人)
3. どちらともいえない (50 人)
4. あまり知らなかった (96 人)
5. 全く知らなかった (49 人)

問10. 北アルプス南部地域で、登山道の利用者に協力金をお支払いいただく取組を実施していることをご存知でしたか？ 当てはまる番号に1つ○をつけて下さい。(N=433)

1. 今年度に知った (77 人) →問 12 へ
2. 知らなかった・今初めて知った (297 人) →問 12 へ
3. 昨年度から知っていた (59 人) →問 11 へ

問11. 「昨年度から知っていた」とお答えした方にお聞きします。昨年、寄付金をお支払いいただきましたか？ 当てはまる番号に1つ○をつけて下さい。(n=62)

1. 一回支払った (15 人)
2. 複数回支払った (12 人)
3. 支払わなかった (35 人)

問12. 今回、あなたは協力金をお支払いいただきましたか（あるいはお支払いいただく予定ですか）？ 当てはまる番号に1つ○をつけて下さい。（N=433）

1. 支払った（49人）→問14へ
2. 支払うつもりである（99人）→問14へ
3. 支払っていない（支払わない）（284人）→問13へ

問13. 「支払っていない（支払わない）」とお答えした方にお聞きします。協力金をお支払いいただけなかった（お支払いいただけない）理由について、最も当てはまる番号に1つ○をつけて下さい。（n=278）

1. 用途について賛同できないから（1人）
2. 設定されている金額が高すぎるから（0人）
3. 任意の協力金ではなく利用料金などの全員が支払う仕組みが望ましいから（52人）
4. 支払う手続きが面倒であるから（19人）
5. 使い道がよくわからないから（11人）
6. その他（195人）  
「知らなかった」、「支払う場所が分からなかった」などが非常に多い

問14. 問12で「支払った」「支払うつもりである」とお答えした方にお聞きします。お支払いいただいた（あるいはお支払いいただく予定の）金額をご記入ください。複数人数分をまとめてお支払いいただいた方は（あるいはお支払いいただく予定の方は）一人当たりの金額をご記入下さい。（n=145）

表1 問14の集計結果

100円	5人	1250円	1人
200円	7人	1500円	3人
300円	5人	2000円	13人
400円	2人	3000円	10人
500円	25人	5000円	7人
1000円	65人	10000円	2人
平均金額：1369円			

問15. 問 12 で「支払った」「支払うつもりである」とお答えした方にお聞きします。  
協力金をお支払いいただいた（お支払いいただける）理由について、当てはまる番号全てに○をつけて下さい。（n=152）

1. 登山道の維持管理に貢献したいから（124 人）
2. 山小屋を支援したいから（98 人）
3. 登山者が登山道の整備費用を支払うのが望ましいから（98 人）
4. 安全に登山をしたいから（110 人）
5. 自然環境を守りたいから（105 人）
6. その他（除外）

問16. 問 12 で「支払った」「支払うつもりである」とお答えした方にお聞きします。  
今後も協力金は継続して集められる予定ですが、あなたは今後とも協力金を支払われる意向がございましたか？ 当てはまる番号に 1 つ○をつけて下さい。  
（n=149）

1. この地域を訪れる際には毎回支払いたいと思う（129 人）
2. 今回支払ったので、当分（二～三年後）は支払わないと思う（1 人）
3. 訪問の有無にかかわらず支払いたいと思う（11 人）
4. 今回支払ったので、今後は支払わないと思う（1 人）
5. この地域を訪れる予定がないので支払わないと思う（0 人）
6. その他（7 人）

問17. 登山道維持を目的とした協力金が、北アルプス南部地域への訪問1回ごとにお支払いする協力金になったとします（実際にはこのようなことは計画されていません）。協力金が仮に1人当たり500円であったとします。あなたは協力金をお支払いいただけますか？ 当てはまる番号に1つ○をつけて下さい。ただし、実際にお金を支払うと、支出をどこかで減らす必要があることも踏まえてお答え下さい。

1. 支払う    2. 支払わない    3. わからない

問18. 「支払う」とお答えした方にお聞きします。協力金が仮に1人当たり1000円であったとしたらお支払いいただけますか？ 当てはまる番号に1つ○をつけて下さい。

1. 支払う    2. 支払わない  
3. わからない

問19. 「支払わない」とお答えした方にお聞きします。協力金が仮に1人当たり200円であったとしたらお支払いいただけますか？ 当てはまる番号に1つ○をつけて下さい。

1. 支払う    2. 支払わない  
3. わからない

表2 問17から問19までの集計結果

問17	問18	問19	YY	YN	NY	NN
500	1000	200	58	33	1	1
1000	1500	500	34	29	13	5
1500	2500	1000	21	36	14	15
2500	5000	1500	12	32	26	30
5000	10000	2500	1	12	9	44

※1 Yは「支払う」、Nは「支払わない」あるいは「わからない」を意味する。

表3 支払意志額の推定結果（属性変数無し）

推定結果				推定支払意志額		
	変数	係数	t値	p値	中央値	
constant	16.8062	16.591	0.000***	平均値	1,729	裾切りなし
ln(Bid)	-2.2543	-16.744	0.000***		2,296	最大提示額で裾切り
有効回答数	426					
対数尤度	-505.647					

※1 \*は10%、\*\*は5%、\*\*\*は1%水準で有意であることを示す。

問20. 二回とも「支払わない」とお答えした方にお聞きします。その理由として最も当てはまる番号に1つ○をつけて下さい。(n=67)

1. 金額が高すぎる (49人)
2. 登山者が支払う必要は無い (3人)
3. 使い道が適切ではない (0人)
4. 地域が限定されているから (3人)
5. その他 (12人)

問21. あなたの性別について、当てはまる番号に1つ○をつけて下さい。(N=446)

1. 男性 (284人)
2. 女性 (162人)
3. その他 (0人)

問22. あなたの年齢について、当てはまる番号に1つ○をつけて下さい。(N=446)

1. 十代 (1人)
2. 二十代 (18人)
3. 三十代 (35人)
4. 四十代 (87人)
5. 五十代 (154人)
6. 六十代 (111人)
7. 七十代以上 (40人)

問23. あなたの住まいについて、教えて下さい。(N=445)

表5 問23の集計結果

愛知	34人	長野	13人
千葉	23人	長崎	1人
福井	2人	新潟	4人
福岡	7人	大分	2人
福島	3人	岡山	6人
岐阜	7人	大坂	41人
群馬	2人	佐賀	3人
広島	8人	埼玉	38人
北海道	3人	滋賀	3人
兵庫	29人	静岡	8人

茨城	10人	栃木	5人
石川	15人	東京	82人
岩手	2人	富山	3人
香川	1人	USA	1人
鹿児島	2人	和歌山	3人
神奈川	53人	山形	2人
京都	12人	山口	3人
三重	4人	山梨	4人
宮城	4人		
宮崎	2人		

問24. あなたの登山頻度について、当てはまる番号に1つ○をつけて下さい。(N=443)

1. ほぼ毎週 (83人)
2. 月に一回程度 (年に十五回程度) (124人)
3. 一～二カ月に一回 (年に十回程度) (55人)
4. 二～三ヵ月に一回 (年に四～五回程度) (71人)
5. 半年に一回 (年に二回程度) (55人)
6. 年に一回 (26人)
7. その他 (29人)

問25. あなたの登山歴について、当てはまる番号に1つ○をつけて下さい。(N=445)

1. 一年未満 (14人)
2. 二～三年 (45人)
3. 四～五年 (69人)
4. 六～九年 (75人)
5. 十年以上 (233人)
6. ほとんどしたことがない・全く経験がない (9人)

問26. 北アルプス南部地域の登山道維持の問題や今回の取組「北アルプストレイルプログラム」に関するご意見やご感想があれば、ご自由にお書き下さい。

除外